

# 児童向け小学校道徳副読本における福祉問題

上 續 宏 道

## 1. はじめに

改正教育基本法の理念に基づき、一部改正された学校教育法では、①規範意識、公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画する態度の育成②生命および自然を尊重する精神、環境の保全に寄与する態度の育成③伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度の育成と、他国を尊重し国際社会の平和と進展に寄与する態度の育成、が謳われている。また、それらの内容を反映した形で2008(平成20)年3月より新学習指導要領が告示され、2008(平成20)年1月には教育再生会議の最終報告も出され、道徳教育も2009(平成21)年4月から新学習指導要領に基づく教育が展開されることとなった。

そこでは児童・生徒の発達段階を考慮しつつ、道徳的価値に基づいた自己のあり方、生き方について考えを深め、公共の精神や規範意識を養うことについても重視され、その方向に添った学校の役割が期待されている。

道徳教育の学校教育上の位置付けとして、2006(平成18)年度に内閣に設置された教育再生会議では、後に文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議会の審議の中で見送られることにはなったが、青少年の犯罪や規範意識の低下を背景として、第2次報告、第3次報告、最終報告においても、道徳教育の教科化が提言されるといった動きもある。

中央教育審議会答申「学習指導要領等の改善について」(2008〈平成20〉年1月)では、道徳教育について、自制心や規範意識、自他の生命の尊重、自尊感情や他者への思いやり、などの道徳性を養うこと、主体的な判断や適切な行動のできる人間づくり、奉仕体験活動の重視などが謳われている。

今後、少子・高齢化による要援護者支援のための制度、資源の整備と同時に、それを運用する上での、人々の心の在り方、幼少期からの「人間性」の開発について志向することが、福祉や教育においても求められる。本論ではこうした社会福祉でも課題となる、いわば、理念的に福祉教育と関係の深いとみられている道徳教育において、日常使用されている児童向け小学校道徳副読本における福祉問題に関して、そこで扱われている内容について取りあげ、その現状や課題について論じる。

## 2. 道徳教育と福祉問題

道徳については「ある社会で、その成員の社会に対する、あるいは成員相互間の行為の善悪を判断する基準として、一般に承認されている規範の総体」<sup>1)</sup>とされている。

道徳を教えるには慣習的道徳からの伝統主義的アプローチや反省的道徳からのロマン主義的アプローチ等があり、その具体的展開方法にも諸々の理論があるが、「子供に特定の行動・態度の様式や価値観・規範意識を身につけさせ、一定の価値を志向させ、理想を自覚・志向させる教育」<sup>2)</sup>とされるように、究極的には、それぞれの社会において支配的な規範(norm)や価値(value)を児童に内面化、内在化させる教育と考えられる。

文部科学省の学習指導要領では、小学校の道徳教育は(1)人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う、(2)豊かな心をはぐくむ、(3)伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る人間を育成する、(4)公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努める人間を育成する、(5)他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献する人間を育成する、(6)未来を拓く主体性のある日本人を育成する、(7)その基盤としての道徳性(道徳的心情、判断力、実践意欲と態度など)を養う、をその目標とする。<sup>3)</sup>

道徳教育を展開する上で、ボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験活動を通して道徳性の育成が図られ、善悪を判断し、人間としてしてはならないことをしないようにすることなどに配慮しなければならないとする留意事項も示されており、規範意識の涵養、善悪の判断と実践への留意等も示されている。したがって、道徳教育は人間教育の基盤でもあり、他の全ての教育活動と密接に関わりつつ、行われる。<sup>4)</sup>

小学校学習指導要領には、道徳教育の内容について、1・2年では「よいと思うことを進んで行う」「幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする」「友達と仲よくし、助け合う」「父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る」等、3・4年では「自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする」「自分でやろうと決めたことは粘り強くやり遂げる」「相手のことを思いやり、進んで親切にする」「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う」「生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する」「父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる」等、5・6年では「自由を大切にし、自律的で責任のある行動をする」「だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする」「日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる」「だれに対しても差別することや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める」「身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす」「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする」「父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする」等、人としての自らの生き方や、社会や集団において、あるいは他者との関わりの中でのあり方、姿勢等についても多く示されている。<sup>5)</sup>

「主体性」や「自律」「思いやり」「親切」等、道徳で強調される徳目の醸成は福祉を学ぶ上でも重要な課題である。また、ボランティア活動等体験学習を重視する点でも課題を共有するといえる。

体験学習を行うことは、副読本の中でも取り扱われているが、自分と異なる他者との関わりの中で他者理解や他者の感情に共感することを学ぶことにもなる。また、社会の偏見・差別や

スティグマの感情を理解することにもつながる。

中央教育審議会答申「学習指導要領等の改善について」（2008〈平成20〉年1月）でも、子ども達の現状や課題として、①自分に自信が持てず、将来や人間関係に不安を感じている、②自分や他者の感情や思いを表現したり、受け取ったりする力が乏しい、③家族以外の大人や異年齢の子ども達との交流、自然体験などが不足している、としている。

現代の子ども達の生活圏では、地域の人間関係は希薄化し、対人関係は学校内の教師や児童・生徒、あるいは家庭内での親と子の関係に限られ、決して多様なものではない。

そのような意味で体験学習を行うことは、そこで自己の有用観や自己の生き方を確立し、他者や社会との連帯感を醸成し、社会のルールや規範を身につけ、主体的に社会的な問題に取り組もうとする姿勢にも結びつき、さらには、共感能力の涵養やセルフエスティームと自尊心を高めることにもつながる。

今日の児童は、中央教育審議会の指摘にもあるように、こうした狭隘な人間関係の中で、年齢による横断的なグルーピング（輪切り）による教育体制において異年齢間の交流を妨げ、自分とは異なる他者への理解と共感をしにくくしている。<sup>6)</sup>中里至正らの調査でも、日本では他の国の人々と比べて、気分が変わりやすく、人にはきつくあたり、人の立場をあまり考えないという結果が出ている。<sup>7)</sup>さらに同調査では、日本の若者は思いやり意識が全体的に低いこと、緊急援助や奉仕が弱いこと、知人と他人を区別して他人に対する思いやり意識が低いこと等、多くの問題があり、個人生活重視で、自己中心で、共感性が弱いという点で思いやり意識に乏しいとの指摘もしている。<sup>8)</sup>

また、知的な競争原理を優先した知育偏重の教育では、他者の立場に立つことの出来る「創造力（imagination）」を涵養することや、さらに日常生活で欠くことのできない生活スキルを身につけることを困難にしている。斎藤哲瑯（川村学園女子大学）らの調査によれば、子どもたちの自然体験として「海や川で魚釣りをした」「身長より高い木に登った」ことのない子どもが40%以上おり、「日の出や日の入りを見た」ことのない子どもが過半数に達し、自然体験、屋外での実体験が乏しいことがわかる。また、また、日常生活でも「生まれたばかりの赤ちゃんを見たことがない」が49.8%、「自分の服を洗濯したり干したことがない」が43.6%、「包丁やナイフで果物の皮をむいたことがない」が21.5%と続き、生活体験も乏しく、生活スキルが身につけていないことがわかる。<sup>9)</sup>体験学習には、これらの改善への効果も期待されている。

そうした道徳は人間関係・社会関係の中ではじめて意味をもつものである。道徳（社会規範）を身につける上では様々な人間関係・社会関係の中で、多様な個性と背景をもつ他者を理解する必要がある。福祉教育により、それが行われてはじめて道徳教育が意味をなすこととなる。

また、文部科学省は道徳教育の目標として「道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う」<sup>10)</sup>をそのひとつとしている。そして、道徳的心情を「善を行うことを喜び、悪を憎む感情…中略…人間としてのよりよい行き方や善を志向する感情である」<sup>11)</sup>としている。

つまり道徳教育の場は「どんな状況のとき、どんな行動をすべきかを考える場である」<sup>12)</sup>との指摘もあるが、道徳教育は人間としてしてはならないこととしなければならないことについての判断能力や対処能力を身につけさせる教育でもある。その意味では、道徳教育は、福祉を

学ぶ事と共通領域が存在する。例えば、道徳副読本中に見られるような「他者への思いやり」や「他者へのいたわり」もそうである。

このように、「今後の新しい道徳の基礎として考えられるものは、自分でものごとを考え、自分の意志で行動を決断することができるということである。そのためには、価値判断が主体的にできる能力と、それによって自主的に行動ができる実践力とが重視されなければならない」<sup>13)</sup>ことになる。

また、児童が規範を身につけることは、社会の秩序を維持する上でも必要であり、学習指導要領における目標や内容が達成されることでもあろうが、道徳教育における道徳的価値は人によってその捉え方が異なり、過度に画一化をすすめると個性や多様性の尊重、多様な人間理解が認められなくなる恐れも出てくる。多様な価値を認める福祉の価値観を基とし、いわば個性的な道徳的価値観がつくられるともいえる。

そのような意味では、道徳教育のあり方が「すべての児童・生徒の道徳的な判断力と洞察力を、できる限り十分に発達させることを助長することにあるかぎり、人間生活における…中略…福祉的な見方とか考え方の理解なしには、青少年の道徳性の適切な発達を図ることは困難」<sup>14)</sup>である。

### 3. 道徳副読本における福祉問題

#### (1) 副読本とは

副読本とは「主となる教科書にそえて、補助的に用いる学習書」<sup>15)</sup>、「正規の教科書のほかに、それとならんで学校教育に有益適切なものとして用いることのできる図書」<sup>16)</sup>と定義されている。

学校教育法第34条第2項では、「教科用図書以外の図書その他の教材で、有益適切なものは、これを使用することができる」<sup>17)</sup>と規定している。また、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第33条第2項では、副読本の使用に際し、所轄の教育委員会に届出させたり、承認を受けさせる規定となっている。<sup>18)</sup>

道徳についても、教科ではなく検定教科書がないため、各出版社や行政機関、関係団体から出されている道徳副読本が教科書の役割を果たす図書として使用されている。

授業の際、副読本が使用されるのは、①教科書のみでの授業では、児童・生徒の学力をさらに向上させる上で不充分であり、それを可能にするための役割を果たす、②教科書を使用しても児童・生徒の学力からみて理解が困難であり、それを補う、③文部科学省の検定を受け、全国の学校で使用されている教科書が、全国平均的な内容にならざるを得ないという点があるため、児童・生徒にとり、それぞれの地域や郷土の実態をふまえた学習が求められる際に、それを補完する、といった役割が考えられる。

各教科、道徳、特別活動における教材・資料の取り扱い、授業の発展としての体験学習の指導においても、副読本の役割が期待されている。

なお、小学校道徳副読本については以下の業者（団体）より出版されている。ただし、業者

によっては近畿版、あるいは低学年のみ出版している業者を含んでいる。

- ・愛知県教育振興会『道徳 明るい心 1年－6年』
- ・学研『みんなのどうとく 1年－6年』
- ・学校図書『道徳 ががやけみらい 1年－6年』
- ・教育出版『小学道徳 心つないで 1年－6年』
- ・京都府教育委員会『京の子ども 明日へのとびら低学年編－高学年編』
- ・光文書院『新しい道徳 ゆたかな心 1年－6年』
- ・東京書籍『どうとく 1 みんななかよく』  
『どうとく 2 みんなたのしく』  
『どうとく 3 明るい心で』  
『どうとく 4 ゆたかな心で』  
『道徳 5 希望を持って』  
『道徳 6 明日をめざして』
- ・日本標準『みんなでかんがえるどうとく 1 ともだちっていいな』  
『みんなでかんがえるどうとく 2 ともだちっていいな』  
『みんなで考えるどうとく 3 いっしょにやろうね』  
『みんなで考えるどうとく 4 いっしょにやろうね』  
『みんなで考える道徳 5 こんなときどうする？』  
『みんなで考える道徳 6 こんなときどうする？』
- ・日本文教出版『道徳 あすをみつめて 1年－6年 大阪郷土資料付き』
- ・日本文教出版『小学道徳 生きる力 1年－6年 大阪府版』
- ・文教社『どうとく 1年 なかよし』  
『どうとく 2年 なかよし』  
『どうとく 3年 とともに生きる』
- ・文溪堂『道徳 1年－6年(大阪府版)』
- ・光村図書『道徳 きみがいちばんひかるとき 1年－6年』

## (2)福祉問題取り扱い内容

道徳副読本から福祉問題に関わる、あるいはそれになりうると考えられる内容を全て収集調査し、各業者別に表3-1のように分類してまとめた。また、そこでの指導内容についても表3-2の用に分類し、まとめた。

表 3－1 業者別道徳副読本福祉問題取り扱い内容一覧

・愛知県教育振興会

| 書名            | 学年 | 主題            | 指導内容              | 概要                                                                                            | 掲載箇所       | 備考                    |
|---------------|----|---------------|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------|-----------------------|
| どうとくあかるいこころ 1 | 1  | くりの木          | 2－(2) 思いやり・親切     | 空腹のお年寄りに栗を差し出す子ども達の温かい心、お年寄りとの心の交流                                                            | pp.38－39   |                       |
|               |    | 二わのことり        | 2－(3) 仲よし、助け合い    | 誕生日だが、招待客のないやまがらと、それを気にして訪れるみそさざいとのやりとり                                                       | pp.74－77   |                       |
| どうとくあかるいこころ 2 | 2  | おばあさんができたよ    | 2－(2) 思いやり・親切     | 近所の足の不自由なおばあさんと、そこへ遊びに行き手伝いをするひろみとの心の交流                                                       | pp.42－44   |                       |
|               |    | さやかさんのおにぎりづくり | 4－(3) 家族愛         | いつもおにぎりを作ってくれる祖母が手にけがをしたため、代わりに昼食のおにぎりを作る兄のまさと妹のさやか達の祖母への感謝の気持ち                               | pp.86－88   |                       |
| どうとく 明るい心 3   | 3  | おばあさん         | 2－(2) 思いやり・親切     | 満員のバスで席を譲るわたしとお年寄りとのやりとり                                                                      | pp.82－85   |                       |
|               |    | たすけ合い         | 3－(1) 生命の尊重       | 町での赤十字の献血活動や父の友人のまさはる君が昔事故で多くの人から血液の提供を受けたことから、生命や互いの助け合いの大切さについて考えるたかしの姿                     | pp.98－101  |                       |
|               |    | おばあちゃんのがね     | 4－(3) 家族愛         | 目の不自由な祖母とそのめがね代わりとなるめぐみとの遊園地での心の交流                                                            | pp.102－104 |                       |
| どうとく 明るい心 4   | 4  | ぼくだってこわい      | 1－(3) 勇気          | クラスでいじめをする和男との関係で学校へ行きたくない広志と、来るよう勇気づける達也とのやりとり                                               | pp.30－33   |                       |
|               |    | ぼくのお姉さん       | 4－(3) 家族愛         | 17才のダウン症の姉が福祉作業所での給料でレストランの食事代を払い、それに涙する母をはじめ家族とのふれあい                                         | pp.52－57   | 「ダウン症」の記述             |
|               |    | 心の花たば         | 2－(2) 思いやり・親切     | 目の不自由な人の歩行の手伝いをするのに、校長先生の話から、気が弱いながら思い切って声をかけ、晴れ晴れとした気分になるポールと、にっこり笑ってポールの肩に手を置く目の不自由な人とのやりとり | pp.96－99   |                       |
|               |    | おじいちゃんの写真     | 2－(4) 尊厳・感謝       | 昔、消防団で学校の台風被害の時、お世話になった隣のおじさんへの母の感謝の気持ちとその話を聞き、思いを新たにするのり子の姿                                  | pp.100－103 |                       |
| どうとく 明るい心 5   | 5  | 母の仕事          | 4－(4) 勤労・社会奉仕、公共心 | 移動浴槽車の看護師(婦)として、お年寄りの介護をする母とその話を聞く娘とのやりとり                                                     | pp.10－13   | 「移動浴そう車」「ポータブル浴そう」の記述 |
|               |    | クラスの宝物        | 2－(2) 思いやり・親切     | ろう学校から自分のクラスにきた山口さんとわたしの手話や口話を通じた心の交流                                                         | pp.45－47   |                       |
|               |    | 歩道にとめられた自転車   | 4－(3) 社会的役割       | 歩道の違法駐輪で移動に困る車椅子の男性の様子を見て、その介助と自転車の整理を                                                        | pp.76－79   |                       |

児童向け小学校道徳副読本における福祉問題

|             |   |              |                   |                                                                                                       |            |                |
|-------------|---|--------------|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|----------------|
|             |   | 車            | の自覚と責任            | する清美と友子の姿                                                                                             |            |                |
|             |   | おばあさん、待っててね  | 2-(2) 思いやり・親切     | 特別養護老人ホームに調理師として働く母と共にホームを訪れ、入所者と歌を歌ったり、話をして交流を深める夏子の姿                                                | pp.110-113 | 「特別養護老人ホーム」の記述 |
| 道徳<br>明るい心6 | 6 | サマーボランティア    | 4-(4) 勤労・社会奉仕・公共心 | サマーボランティアとしてひとり暮らしのおばあさんの弁当を届ける博史とそれを喜ぶおばあさん、応援してくれる母とのやりとり                                           | pp.26-29   |                |
|             |   | おばあちゃんのさがしもの | 4-(5) 家族愛         | 認知症となった祖母が昔を思い出す様子から探し物をしているように感じるわたしややさしく接しようとする家族の姿                                                 | pp.42-45   |                |
|             |   | 猛火の中で        | 3-(1) 生命の尊重       | 1923(大正12)年の関東大震災で被災し、猛火で苦しむ人々を救おうとする小島龍太郎の姿                                                          | pp.54-57   |                |
|             |   | モントゴメリーのバス   | 4-(2) 公正・公平、正義    | バスで白人に席を空けなかった事で、逮捕されたローサ・パークスさんの事件から、キング牧師を中心とする黒人差別撤廃のためのバスボイコット運動に発展し、最高裁で人種で席を分ける州の法律が憲法違反と認められた話 | pp.84-87   |                |
|             |   | おばあちゃんの指定席   | 2-(2) 思いやり・親切     | 電車でいつも決まった席に乗り、途中の駅で乗車するおばあさんに席を譲ろうとするゆう子の姿                                                           | pp.104-107 |                |
|             |   | おじいちゃんの命     | 3-(1) 生命の尊重       | 庭師として懸命に働き亡くなった祖父の姿を思い起こしつつ、命の大切さや精一杯生きていこうと思う孫の里帆の姿                                                  | pp.108-111 |                |
|             |   | 祝福がありますように   | 4-(8) 国際理解と親善     | 青年海外協力隊で助産師の知念ヨシ子さんは、貧困で食糧不足、栄養状態も悪いアフリカのマラウイで活動し、マラリアに罹ったマダリーンを回復させ、帰国後も養育費や教育費の提供を行い続けるという話         | pp.126-130 |                |

・学研

| 書名          | 学年 | 主題          | 指導内容          | 概要                                                                               | 掲載箇所     | 備考            |
|-------------|----|-------------|---------------|----------------------------------------------------------------------------------|----------|---------------|
| みんなのどうとく1ねん | 1  | ひいじいちゃんとうわし | 4-(2) 勤労・奉仕   | 94才で認知症のひいじいちゃんとうひ孫のさきとの心の交流                                                     | pp.94-96 |               |
| みんなのどうとく2ねん | 2  | ふるさと先生      | 4-(4) 愛校心     | 島に伝わる様々なことを知っており、「ふるさと先生」と呼ばれる祖母が、幼稚園や学校で生き生きと島のおどり、言葉や料理を教える姿と、色々教えてもらおうとする孫の思い | pp.50-51 |               |
|             |    | こころの花       | 2-(2) 思いやり・親切 | まきのクラスと一人暮らしのおばあさんとの菊の花のプレゼントを通じた心の交流                                            | pp.52-53 |               |
|             |    | こうえんのおにごっこ  | 2-(2) 思いやり・親切 | 事故で体に障がいのあるゆうたとしんじ達との公園で鬼ごっこをする際のやりとり                                            | pp.75-77 |               |
| みんなのど       | 3  | 耳をおいて       | 2-(2)         | 聴覚障がい者のえりさんと聴導犬美音との                                                              | pp.20-   | 「聴導犬」の記述・「手話」 |

|              |   |                |                     |                                                                                                                                                     |            |                   |
|--------------|---|----------------|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|-------------------|
| うとく 3 年      |   | でかけられますか？      | 思いやり・親切             | 日常生活を学校で聞いてきた少女が母に話し、手話を覚えようとするやりとり                                                                                                                 | 23         | や「指文字」に関する絵や写真を掲載 |
|              |   | こころないことば       | 1－(4)<br>誠実・明朗      | クラスメイトから大嫌いなあだ名をつけられた少年が、勇気を出して止めて欲しいと言い、先生があだ名について1時間の話し合いの場をもつことであだ名で呼ばれなくなったという話                                                                 | pp.70－71   |                   |
|              |   | 明るくなった友だち      | 2－(3)<br>信頼・友情、助け合い | 同じクラスの子が何回も休むことを見過ごすのを母からたしなめられた娘の千緒が、その子の家に迎えに行き一緒に学校に行き、みんなが仲間になっていった話                                                                            | pp.94－96   |                   |
| みんなのとうとく 4 年 | 4 | オトちゃんルール       | 2－(3)<br>信頼・友情、助け合い | 先天性四肢切断で生まれた乙武洋匡さんが小学校時代、クラスの友達で作った「オトちゃんルール」で野球を楽しみ自分自身の当たり前を受けとめていたことのエピソード                                                                       | pp.14－17   |                   |
|              |   | 心の信号機          | 2－(2)<br>思いやり・親切    | おつかいに行く道で信号を渡れず立ち止まっている目の不自由な男性を見かけ、思い切って声をかけて手を取り横断歩道を渡りほっとする少年の心の動き                                                                               | pp.18－20   |                   |
|              |   | わたしのいもうと       | 2－(2)<br>思いやり・親切    | 自分の妹が4年生の時転校した学校でいじめを受け、不登校となり、数年後亡くなった事を述べた話                                                                                                       | pp.50－53   |                   |
|              |   | 神戸のふっこうはぼくらの手で | 4－(2)<br>勤労・奉仕      | 阪神淡路大震災での避難場所となった学校で大浜先生をはじめ宮本君や小学生達がボランティアの人々と協力して避難場所の仕事を手伝う様子                                                                                    | pp.104－107 |                   |
|              |   | 温かいことば         | 2－(2)<br>思いやり・親切    | 足にギブスをはめた7～8才の少年がデパートの階段を上がるのに手を貸そうとする男性と、それを断る少年との「ごめんなさい」「ありがとう」と交わす温かい言葉のやりとり                                                                    | pp.108－110 |                   |
| みんなのとうとく 5 年 | 5 | 命              | 3－(2)<br>自然愛、動物愛護   | 5才で「神経芽細胞腫」とわかり、長野県立子ども病院で闘病生活を送りつつ11才で亡くなった宮越由貴奈ちゃんの命の大切さについての話を、富士見小学校の子ども達の手でパッチワークのタペストリーとして残す中でいじめもなくなったという話                                   | pp.2－5     |                   |
|              |   | 上を向いて歩こう       | 1－(2)<br>希望・勇気      | 人気歌手の坂本九さんが1962年の北海道のポリオ流行をきっかけに福祉活動を始め、札幌テレビで10年間チャリティショーや福祉番組のメインキャスターとして車いすランナーの宮下さんの北海道一周マラソンにも励ましを送る等の活動を行い、「上を向いて歩こう」の歌のメッセージを残して飛行機事故で亡くなった話 | pp.18－21   |                   |
|              |   | 母とながめた一番星      | 3－(2)<br>自然愛        | 学校で仲間はずれのいじめにあい、家を飛び出した恵子に、一番星をながめながら自分が産まれる時の苦労話や産まれた時の家族の喜びを母から聞くことで、家族の愛情や自分を大切にしようという思いを新たにすると話                                                 | pp.31－33   |                   |
|              |   | 人の心にふれて        | 2－(2)<br>思いやり・      | 小学校5年生の少年が薪を背負うおばあさんの手伝いをし、みかんをもらった温かい                                                                                                              | pp.55－57   |                   |

児童向け小学校道徳副読本における福祉問題

|               |   |                              |                             |                                                                                                                                                            |            |                                        |
|---------------|---|------------------------------|-----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|----------------------------------------|
|               |   |                              | 親切                          | 思い出と共に人に親切にできた時の満足感とその大切についておばあさんの亡くなった後も感じている様子                                                                                                           |            |                                        |
|               |   | 愛の日記                         | 4－(3)<br>役割の自覚と責任           | 沢田美喜のエリザベスサンダーホームで育った父が、自分の生い立ちと重ね合わせ娘の愛に自分の話をし、クラスメイトで友達の出来ないベトナム人のリヤンちゃんを誕生会に誘うまでの愛の日記                                                                   | pp.64－67   |                                        |
|               |   | おじいさんのあたたかな目                 | 2－(5)<br>尊敬・感謝              | 夕方の自転車乗りが危ないと注意したり、川にはまった時、家まで連れて帰ってくれた近所のおじいさん達の親切についてのささえを実感する少年の姿                                                                                       | pp.68－69   |                                        |
|               |   | 小さな手から                       | 4－(4)<br>勤労・奉仕              | 1995(平成7)年の阪神淡路大震災の被害者のために小学校の先生や父が救援活動をしている姿からゆみ子達がクラスメイトと「ひなん所新聞」を作ろうとする姿                                                                                | pp.112－115 |                                        |
| みんなの<br>うとく6年 | 6 | マザー・テレサ                      | 4－(4)<br>勤労・奉仕              | カルカッタで青空学校、孤児の家、死を待つ人の家、ハンセン病患者の平和対策を作り、苦しんでいる人や貧しい人のために一生をささげ、ノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサの生涯                                                                      | pp.14－18   |                                        |
|               |   | なぜひこどもは学校に行か<br>ねばなら<br>ないのか | 1－(2)<br>希望・勇<br>気・不撓不<br>屈 | 特殊学級、養護学校で学校生活を送り、他の子ども達との出会いの中で、自己理解や他者とのつながりを学び、母の影響で作曲家になることができた大江健三郎さんの息子光さんの姿                                                                         | pp.19－21   | 「特殊学級」「知的障害児」の記述                       |
|               |   | ボランティア<br>しあう関<br>係          | 2－(5)<br>尊敬、感謝              | 仕事を辞めて「自分探し」の旅に出ようと<br>考え、脳性マヒで車椅子生活の松兼さんに<br>居酒屋で相談しつつ、その身の回りの世話<br>をしようとする23才の〇君と、相談へのア<br>ドバイスする松兼さんとの互いに助け合い<br>支え合うボランティアしあう関係について                    | pp.33－35   |                                        |
|               |   | わたしの思<br>い                   | 3－(2)<br>自然愛、動<br>物愛護       | 交通事故で車椅子生活となった父や自分の<br>病気を通して周りの人々の存在や生命の尊<br>さ、生きることについて思いを新たにしよう<br>とする少女の姿                                                                              | pp.36－39   |                                        |
|               |   | よみがえれ<br>日本海                 | 4－(4)<br>勤労・奉仕              | 1997(平成9)年のナホトカ号沈没により、<br>福井県三国町に流出した重油を地元民と全<br>国からのボランティア30万人が協力して取<br>り除く作業が行われ、3ヶ月で日本海の青<br>さを取り戻した話                                                   | pp.40－43   |                                        |
|               |   | 鈴虫が鳴い<br>た                   | 4－(5)<br>家族愛                | 84歳の母が認知症で耳が遠くなりつつも補<br>聴器を使うのを嫌がっていたが、鈴虫を飼<br>い、えさの世話をするようになり鳴き声<br>を聞くことをきっかけに補聴器を使うよう<br>になり、穏やかな表情を取り戻し、今後も<br>かけがえのない「家庭」で母の楽しめる<br>ものを探そうとする「わたし」の思い | pp.64－67   | 日本の高齢者人口、高齢者へのボランティアや介護法、高齢者に関するクイズの記載 |
|               |   | いじめられ<br>て                   | 2－(3)<br>信頼・友情、<br>助け合い     | 「無視・嫌がらせ」でいじめにあい、登校拒否となり、自殺まで考えた中学生の少女が、強い心を持って登校し、友だちもでき、心を開くようになる中で、一人ひとりが皆違うことやいじめが間違っていること、ひ                                                           | pp.88－91   |                                        |

|  |  |    |                  |                                                                                                     |            |  |
|--|--|----|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|--|
|  |  |    |                  | とりではなく自分に寄り添ってくれる存在がいることについて思いを述べた作文                                                                |            |  |
|  |  | ゆず | 2－(2)<br>思いやり・親切 | 雪の降る夜道で足下の危なげな高齢の女性の風呂敷からこぼれたゆずを拾い、両手に抱いて道案内をした少女が、別れ際に、自分の手袋についたゆずの香りに包まれつつ、すがすがしい気持ちで手を星空に掲げている様子 | pp.108－110 |  |

・学校図書

| 書名             | 学年 | 主題             | 指導内容                | 概要                                                                  | 掲載箇所       | 備考         |
|----------------|----|----------------|---------------------|---------------------------------------------------------------------|------------|------------|
| どうとくかがやけみらい1ねん | 1  | 二わのことり         | 2－(3)<br>信頼・友情、助け合い | 誕生日だが、招待客のないやまがらと、それを気にして、訪れるみそさざいとのやりとり                            | pp.68－71   |            |
|                |    | すっきりはればれ       | 1－(3)<br>勇気         | 電車内で席を譲ろうとする少年と高齢者のやりとり                                             | pp.100－101 |            |
| どうとくかがやけみらい2年  | 2  | さとるくんのプレゼント    | 4－(3)<br>家族愛        | 母の誕生日にケガで療養中の祖母の介助の手伝いや自分の部屋の掃除を母へのプレゼントにする少年の姿                     | pp.12－13   |            |
|                |    | ぼくはクイール        | 3－(1)<br>生命尊重       | 視覚障害者のわたなべさんと生活をし、後に盲導犬についての啓発に学校を訪れる活動をし、生涯を終えた盲導犬クイールの話           | pp.34－35   | 「もうどう犬」の記述 |
| どうとくかがやけみらい3年  | 3  | 運動会のしょうたいじょう   | 2－(1)<br>礼儀         | 近所の親しい1人暮らしの高齢者に運動会への招待状を送ろうとする小学生の3名の少年たちの姿                        | pp.9－11    |            |
|                |    | 町の人が作ったあいの手すり  | 2－(2)<br>思いやり・親切    | 足の不自由な少年のために駅に手すりを設置するまでの町の人々の協力                                    | pp.22－25   |            |
|                |    | やくそく           | 4－(3)<br>家族愛        | 入院した92歳の祖母を気遣い、将来、花嫁姿を見てもらうことを約束し、病人を助ける看護師を目指すとする孫の少女の姿            | pp.34－35   |            |
|                |    | さいたよ、光祐くんのアサガオ | 3－(1)<br>生命尊重       | 白血病で亡くなった少年の育てたアサガオの種を元に広がる骨髓バンク普及活動とその大切さ                          | pp.40－43   |            |
|                |    | 千羽づるのおみまい      | 2－(2)<br>思いやり・親切    | 入院した祖母の回復を願い千羽づるを折り、お見舞カードを作る孫の少女とクラスメイトたちの姿                        | pp.70－73   |            |
|                |    | 清のゆめー山下清ー      | 1－(5)<br>個性伸長       | 言語障がいと知的障がいを乗り越え、描いた山下清の作品への思いや姿勢                                   | pp.76－79   |            |
|                |    | たんじょう会のおにぎり    | 2－(4)<br>尊敬・感謝      | 誕生会で作ってくれたおにぎりをめぐる祖母と少年とのやりとり                                       | pp.86－91   |            |
|                |    | さしのべた右うで       | 2－(2)<br>思いやり・親切    | 横断歩道を渡ろうとする目の不自由な女性をサポートしようとする男性の心遣い                                | pp.118－121 |            |
| どうとくかがやけみらい4年  | 4  | あしたにトライー成田真由美ー | 1－(2)<br>勤勉・努力      | 中学生で横断性脊髄炎により足を、高校生で右手が不自由になりつつも苦しみを乗り越えてパラリンピックで7つの金メダルを取った成田真由美の姿 | pp.2－7     |            |

児童向け小学校道徳副読本における福祉問題

|                     |   |                           |                   |                                                                 |            |  |
|---------------------|---|---------------------------|-------------------|-----------------------------------------------------------------|------------|--|
|                     |   | ベッドの上の花ふぶき                | 4－(3) 家族愛         | 入院した祖母のために好きだった桜の花びらを集めてベッドに散らし、回復を願い、気遣う孫と祖母の心の交流              | pp.12－15   |  |
|                     |   | ともに生きたい                   | 2－(2) 思いやり・親切     | 足の不自由な少年が友達と遊ぶのに砂場に連れてもらうように、頼まなかった事やお互いの助け合いについてを論ず父とのやりとり     | pp.36－39   |  |
|                     |   | 電池が切れるまで                  | 3－(1) 生命尊重        | 5才で病身となり、腎臓を取る等、手術を繰り返して闘病生活を送りつつ院内学級で学び、11才で生涯を終えた少女の生涯        | pp.90－93   |  |
|                     |   | いのちのおはなし                  | 3－(3) 敬けん         | 95歳の現役医師日野原重明氏の小学生に向けた自分の時間（自分のいのち）を（他の人のために）使うことの大切さについて説く授業   | pp.122－127 |  |
| 道徳<br>かがやけみ<br>らい5年 | 5 | ゆけチャンピイ！きせきの犬             | 1－(2) 希望、勇氣、不撓不屈  | 結核病を乗り越え、苦心の末、日本で初めての盲導犬チャンピイを、視覚障害者の河相さんのために訓練を重ね育て上げた塩谷さんの姿   | pp.2－6     |  |
|                     |   | 日本のナイチンゲール<br>いぶかやえー井深八重ー | 3－(3) 敬けん         | 神山復生病院でハンセン病治療に看護師として91才まで生涯をささげ、フローレンス・ナイチンゲール記章を受けた井深八重の姿     | pp.54－57   |  |
|                     |   | もう火の中で                    | 3－(1) 生命尊重        | 1923(大正12)年の関東大震災で被災し、猛火で苦しむ人々を救おうとする小島龍太郎の姿                    | pp.58－61   |  |
|                     |   | 365×14回分の「ありがとう」          | 2－(5) 尊敬・感謝       | 心臓病で14才で亡くなった柳橋佐江子さんが手術の前に残したお母さんへの感謝の手紙                        | pp.76－79   |  |
|                     |   | 石だんの思い出                   | 2－(2) 思いやり・親切     | 荷物を持ち、石段を上がるおばあさんと、それを手助けできなかった中学時代の母の思いで                       | pp.80－83   |  |
|                     |   | たったひとつのたからもの              | 3－(1) 生命尊重        | 心内膜欠損症と肺高血圧症のため、6才で亡くなった秋雪君の生きた証としての親子の関わりや思いについての母の記録          | pp.84－88   |  |
|                     |   | 友のしょうぞう画                  | 2－(3) 信頼・友情、助け合い  | 筋肉の収縮する病で九州の療養所に入院し、不自由な体で幼なじみの和也の肖像画を書くことを通じたお互いの思い            | pp.92－95   |  |
|                     |   | 心にかける屋根シート                | 4－(4) 勤労奉仕        | 1995(平成7)年の阪神淡路大震災で破損した屋根に新潟県のトタン屋の岩崎さんがシートを張るボランティアをすることで得る充足感 | pp.116－117 |  |
|                     |   | きよみちゃん                    | 4－(2) 公正・公平、正義    | 両大血管右室起始症のきよみちゃんが亡くなるまでの4年生のクラスメイト達の心の動き                        | pp.134－140 |  |
| 道徳<br>かがやけみ<br>らい6年 | 6 | わたしの知らないところで              | 1－(1) 思慮・反省、節度・節制 | 携帯メールを使用するクラスメイト同士のやりとりで、良太君と好き同士とデマを流されて悲しむ絵里子と流したハルカとミキとのやりとり | pp.7－9     |  |
|                     |   | 愛の日記                      | 4－(2) 公正・公平、      | 沢田美喜のエリザベスサンダーホームで育った父が、自分の生い立ちと重ね合わせ娘                          | pp.32－35   |  |

|  |  |                       |                         |                                                                                       |            |  |
|--|--|-----------------------|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|------------|--|
|  |  |                       | 正義                      | の愛に自分の話をし、クラスメイトで友達の出来ないベトナム人のリヤンちゃんを誕生会に誘うまでの愛の日記                                    |            |  |
|  |  | カザルスの鳥の歌              | 3－(1)<br>生命尊重           | NHK交響楽団の首席チェロ奏者徳永謙一郎が癌にむしばまれたホスピス生活の中で、激しい痛みにも耐えつつ、カザルスの鳥の歌を力強く演奏し、55年の生涯を終えていく姿      | pp.56－60   |  |
|  |  | わたしのいもうと              | 2－(2)<br>思いやり・親切        | 自分の妹が4年生の時転校した学校でいじめを受け、不登校となり、数年後亡くなるまでを述べた話                                         | pp.66－71   |  |
|  |  | ヘレンと共に<br>－アニー・サリバン－  | 1－(2)<br>希望・勇気、<br>不撓不屈 | パーキンス盲学校で指話法や読唇術等を学び、ヘレン・ケラーの家庭教師として、その教育に尽くしたことに共に、大学から名誉博士号を授与されたアニー・サリバンの姿         | pp.84－87   |  |
|  |  | 見えない人に幸せを             | 1－(5)<br>創意・進取          | 王立バリ盲学院で教師の助手をする12才の少年ブライユが視覚障がい者のための点字の整理、改善に取り組む姿                                   | pp.118－121 |  |
|  |  | カルカッタの聖女<br>－マザー・テレサ－ | 4－(8)<br>国際理解・<br>親善    | カルカッタで青空学校、孤児の家、死を待つ人の家、ハンセン病患者の平和村等を作り、苦しんでいる人や貧しい人のために一生をささげ、ノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサの生涯 | pp.148－151 |  |

・教育出版

| 書名                                 | 学年 | 主題         | 指導内容                  | 概要                                                               | 掲載箇所     | 備考 |
|------------------------------------|----|------------|-----------------------|------------------------------------------------------------------|----------|----|
| しょうがくどうとく<br>ころつないで1               | 1  | つよいこころ     | 1－(3)<br>勇気           | 授業中、「勇気を出す時とはどんな時」との先生の間に「いじめられている友達を助ける時」と答える児童とのやりとり           | pp.42－43 |    |
|                                    |    | うれしいわ      | 2－(4)<br>尊敬・感謝        | 自分の誕生日に家族が柏餅をつくってくれたり、雨降りの日でも、天気の日でも口癖の「うれしいわ」と発する祖母の姿勢          | pp.50－51 |    |
|                                    |    | さんぽ        | 4－(3)<br>家庭愛          | 本当は歩きたいと思っている車椅子生活の父と公園を父の介助をしながら歩く母とゆきちゃんの姿                     | pp.62－63 |    |
| 小学どうとく<br>ころつないで2                  | 2  | しっている？     | 1－(4)<br>正直・誠実、<br>明朗 | それぞれ皆住んでいる所で、町の様子や言葉、一人ひとりが違うこと、違うから楽しいこと、優しくなれることについて説明         | pp.12－13 |    |
|                                    |    | でん車の中で     | 2－(2)<br>思いやり・親切      | 混雑する電車内での妊婦をかばう男性とたかし君とのやりとり                                     | pp.46－47 |    |
| 小学どうとく<br>心つないで3<br>Heart to Heart | 3  | おじいちゃんのひみつ | 2－(4)<br>尊敬・感謝        | 毎朝公園で掃除や花壇の手入れをして人のためになることを生きがいとする秘密をもつおじいちゃんの姿勢を見習おうとする孫とのやりとり  | pp.29－31 |    |
|                                    |    | 心の中で       | 1－(5)<br>個性の伸長        | 視力の低下した祖母が、体が不自由で入院中の恩人を見舞おうとする願いを孫の少年が祖母の目になり守ると心に決めて付き添おうとする様子 | pp.48－50 |    |

児童向け小学校道徳副読本における福祉問題

|                                               |   |                           |                        |                                                                                                                                                                                                                                |              |  |
|-----------------------------------------------|---|---------------------------|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|--|
|                                               |   | かんぞうま<br>ごのおじい<br>ちゃん     | 3－(1)<br>生命尊重          | 膝の上のにのせてかんぞうまごの子守歌を歌<br>ってくれた祖父が数年後入院し、それを見<br>舞い、幼い頃の祖父の姿を思い起こすみほ<br>子の姿                                                                                                                                                      | pp.90－<br>91 |  |
| 小学どうと<br>く<br>心つないで<br>4<br>Heart to<br>Heart | 4 | 本当の親切                     | 2－(2)<br>本当の親切         | 高齢者の重い荷物を持つ少年のやりとりの<br>絵の中で、高齢者と少年の会話の空白部分<br>に言葉を入れる                                                                                                                                                                          | pp.2－3       |  |
|                                               |   | 幸せはどこ<br>に                | 4－(3)<br>家庭愛           | 一人暮らしの高齢者が、金庫を買って家に<br>置いたところ、家に寄りつかなかった三人<br>の息子たちが自分の世話をするようにな<br>り、亡くなった後、金庫の中を開けて金目<br>のものがいないことを知った息子たちは、一<br>度は怒ったが、そこに「誰かが側にいてく<br>れれば、どんな辛いことや、苦しいことに<br>も絶えられよう。ましてそれが…」と刻ま<br>れており、父親の生前の嬉しそうな様子を<br>思い出して切ない気持ちになる話 | pp.48－<br>50 |  |
|                                               |   | 知えのねだ<br>ん                | 1－(1)<br>節度ある生<br>活態度  | 王と妃の死の悲しみに国を治めず、大臣に<br>任せて国を乱していく王子に現実の民の様<br>子を把握するよう、知恵を授けた高齢女性<br>とのやりとり                                                                                                                                                    | pp.74－<br>75 |  |
| 小学どうと<br>く<br>心つないで<br>5<br>Heart to<br>Heart | 5 | ほのぼのテ<br>スト               | 4－(1)<br>規則の尊重         | 特急バスに誤って乗った一人の男性高齢者<br>への車掌と運転手の気を利かせた取り計ら<br>い                                                                                                                                                                                | pp.26－<br>29 |  |
|                                               |   | 列車で                       | 2－(2)<br>思いやり・<br>親切   | 混雑する列車内での兄弟と、母と子三人連<br>れの人々との席を譲るやりとり                                                                                                                                                                                          | pp.38－<br>41 |  |
|                                               |   | 少年の日の<br>ゆめ<br>－伊能忠敬<br>－ | 1－(6)<br>向上心、個<br>性の伸長 | 勤勉で向上心にあふれ、50才を超えてから<br>も70才まで日本全国の測量を手掛けた伊能<br>忠敬の姿                                                                                                                                                                           | pp.46－<br>49 |  |
|                                               |   | この空の下<br>で                | 4－(8)<br>国際理解と<br>親善   | 総合学習でハイチ共和国の失業率70%や多<br>くのストリートチルドレンの現状を来日中<br>の山田カリンさんと高岡さんから聞いた浩<br>子たちが何か出来る事から始めようとする<br>姿                                                                                                                                 | pp.50－<br>52 |  |
| 小学道徳<br>心つないで<br>6<br>Heart to<br>Heart       | 6 | もう一つの<br>親切               | 2－(2)<br>思いやり・<br>親切   | 少年と女性の高齢者とのバスや電車での座<br>席を譲る事をめぐってのやりとり                                                                                                                                                                                         | pp.62－<br>65 |  |
|                                               |   | ぼくとミー                     | 1－(2)<br>勇気            | 動作が鈍くスローというあだ名をつけら<br>れ、からかわれ、先生に相談できずじまい<br>の少年が飼う猫のミーをいじめている様子                                                                                                                                                               | pp.91－<br>93 |  |

・京都府教育委員会

| 書名                   | 学年               | 主題             | 指導内容 | 概要                                                                                   | 掲載箇所         | 備考                                                            |
|----------------------|------------------|----------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------|---------------------------------------------------------------|
| 京の子ども<br>明日へのと<br>びら | 低<br>学<br>年<br>編 | 思いやりの<br>心をもって | なし   | 様々な国々の子ども達を写真で紹介しつ<br>つ、人それぞれの多様性やかけがえのなさ、<br>親切や思いやり、責任ある行動についての<br>江口克彦さんのメッセージを記載 | pp.40－<br>43 | 京都に関わりのある著名<br>人が小学生への生き方の<br>応援や生きていく上で考<br>えたいテーマを挙げて掲<br>載 |
|                      |                  | いつまでも<br>元気でね  | なし   | 曾祖父母、祖父母、父母、妹と自分の8人<br>家族で暮らす「わたし」が曾祖父母と祖父                                           | pp.96－<br>99 | 京都府の小学生の夢や願<br>いをもって自分や周りの                                    |

|              |                |    |                                                                                                                                                          |          |                                               |
|--------------|----------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|-----------------------------------------------|
|              |                |    | 母に長生きして欲しいと願う小学生の気持ち<br>松尾心空氏による家族を大切にしたいとする応援メッセージを記載                                                                                                   |          | ことを書いた作文                                      |
| 中学<br>年<br>編 | おじいちゃんのおそう式    | なし | お葬式での亡くなったおじいちゃんへの思い出と感謝の思いを述べる「わたし」の気持ち<br>松尾心空氏による生きる意味や生と死に関する応援メッセージを記載                                                                              | pp.66－69 | 京都府の小学生が夢や願いをもって自分や周りのことを書いた作文                |
|              | ぼ金活動           | なし | 重い心臓病の知り合いのお姉さんの心臓移植の費用を作るべく募金活動を行う「わたし」の思い<br>徳川輝尚氏による「思いやりの心」に対する応援メッセージを記載                                                                            | pp.82－85 | 京都府の小学生が夢や願いをもって自分や周りのことを書いた作文                |
| 高学<br>年<br>編 | いのちの尊さを自覚しましょう | なし | 人間は自然や様々なものによって生かされてきたこと、支えてくれる他の人々への感謝の念の大切さ、石田梅岩の心学等に触れ、いのちの尊さを説く上田正昭氏の言葉                                                                              | pp.8－11  | 京都に関わりのある著名人が小学生への生き方の応援や生きていく上で考えたいテーマを挙げて掲載 |
|              | 「いのち」を深く愛する    | なし | 日々、生き生きと進んでいいことをしようとする心、喜んで人を助け、他人の気持ちや自然の有様に美しさを感じる心、生命の輝き、いのちの実感や幸福感についての中西進氏の言葉                                                                       | pp.12－15 | 京都に関わりのある人が小学生への生き方の応援や生きていく上で考えたいテーマとして掲載    |
|              | Tさんとアフリカ子どもたち  | なし | 高校の器械体操で転落し重度障がい者となり「こひつじの苑」に入所したTさんがアフリカに渡り、貧しい子ども達の命を救う募金活動を行い38才で亡くなった後も、募金活動が続けられていること、開発途上国では現在も飢餓や栄養失調で感染症など諸問題があり、日本でも「あなた」にできることを考えようという徳川輝尚氏の言葉 | pp.20－23 | 京都に関わりのある著名人が小学生への生き方の応援や生きていく上で考えたいテーマを挙げて掲載 |
|              | 心の痛みを分かち合う     | なし | アメリカのハリケーン・カトリーナやアジア南東部の大津波、中東のイスラエルとアラブ系住民の武力抗争等、被害に対する心の痛みを分かち合おうとする姿勢についての安藤仁介氏の言葉                                                                    | pp.24－27 | 京都に関わりのある著名人が小学生への生き方の応援や生きていく上で考えたいテーマを挙げて掲載 |
|              | みどりキャンプとわたし    | なし | 体の不自由な方と小学生であるわたしたちが1週間のキャンプのテント生活を「るり溪自然公園」で行うことにより得られた心のふれあいと働くことのすばらしさ<br>山寺兼一氏による相互理解の大切さに対して述べた文章を記載                                                | pp.70－73 | 京都府の小学生が夢や願いをもって自分や周りのことを書いた作文                |
|              | おじいちゃん、おばあちゃん  | なし | 学校近くにできた特別養護老人ホームのお年寄りへインタビューをしたり、自分達の姿を見て喜んでくれる入所者のお年寄りとの関わりと毎日を懸命に生きようと思う「わたし」の心の交流<br>松尾心空氏による老人ホームへの訪問の勧めに関する記載有り                                    | pp.84－86 | 京都府の小学生が夢や願いをもって自分や周りのことを書いた作文                |

・光文書院

| 書名                                | 学年 | 主題                    | 指導内容                             | 概要                                                                                                                              | 掲載箇所           | 備考                                                               |
|-----------------------------------|----|-----------------------|----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|------------------------------------------------------------------|
| あたらしい<br>どうとく<br>ゆたかなこ<br>ころ<br>1 | 1  | ぼくにもた<br>せて           | 4－(3)<br>家族愛                     | スーパーで買い物をし、荷物持ちをする孫<br>の「ぼく」と、それを喜ぶおじいちゃんの<br>やりとり                                                                              | pp.24－<br>25   |                                                                  |
|                                   |    | おとしより<br>といっしょ<br>に   | 2－(2)<br>思いやり・<br>親切             | 敬老の日に地域の高齢者を招待して楽しん<br>でもらう企画を考える1年1組のクラスの<br>様子                                                                                | pp.34－<br>35   |                                                                  |
|                                   |    | 二わのこ<br>と<br>り        | 2－(3)<br>信頼・友情、<br>助け合い          | 誕生日だが、招待客のないやまがらと、そ<br>れを気にして、訪れるみそさざいとのやり<br>とり                                                                                | pp.58－<br>61   |                                                                  |
| あたらしい<br>どうとく<br>ゆたかなこ<br>ころ<br>2 | 2  | おじいさん、<br>おばあさん       | 4－(3)<br>家族愛                     | 自分のおじいさんとおばあさんはどんな人<br>か考えさせ、空欄にそれを書かせる                                                                                         | pp.42－<br>43   |                                                                  |
|                                   |    | レッドカー<br>ド            | *重点主題                            | してはいけないことはどんな事をいじめ<br>る等の例を挙げて考えさせ、それへのレッ<br>ドカードをもらおうと周りの大人がどう思<br>うか、してはいけない自分へのレッドカード<br>について考えさせる                           | pp.62－<br>63   |                                                                  |
|                                   |    | 雨の日のみ<br>ちあんない        | 2－(2)<br>思いやり・<br>親切             | 雨降りの土曜日に店番のお手伝いをしてい<br>たが、病院への道に迷っているお年寄りに<br>気付き、親切に教え、誘導するわたし                                                                 | pp.62－<br>63   |                                                                  |
| 新しいど<br>うとく<br>ゆたかな心<br>3         | 3  | 心の優先席                 | 4－(1)<br>公徳心、規<br>則の尊重、<br>権利・義務 | 混み合う電車内でつかまり立ちをするおば<br>あさんに対しての座席の譲り方をめぐる意<br>見から、それについて考えさせる内容                                                                 | pp.10－<br>15   | 後ページに「優先席」や<br>「エレベーター」「手す<br>り」「スロープ」「青延長<br>用・音響用押しボタン」の<br>説明 |
|                                   |    | おじいさん<br>とぼく          | 4－(3)<br>家族愛                     | 畑でのうね作りをするおじいさんとそれを<br>手伝う孫のぼくとの心の交流                                                                                            | pp.26－<br>29   |                                                                  |
|                                   |    | お年寄りっ<br>て、すごいな<br>あ  | 2－(4)<br>尊敬・感謝                   | お年寄りが自転車を修理したり、公園をき<br>れいに掃除したり、空を見て天気を予想し<br>たり、何でもよく食べ、よく歩き、早寝早<br>起きをし、自然の食べ物の人間にとってよ<br>い点等を知っている点等、知識の豊富さや<br>感謝の気持ちについて記述 | pp.42－<br>45   |                                                                  |
| 新しいど<br>うとく<br>ゆたかな心<br>4         | 4  | また来てね                 | 2－(2)<br>思いやり・<br>親切             | 老人ホーム「せせらぎ」を訪問し、入所者<br>のお年寄りと一緒に娯楽活動をし、コスモ<br>スの苗を植え、世代間交流をする四年一組<br>のクラスメイトの姿                                                  | pp.38－<br>41   |                                                                  |
|                                   |    | せきがあ<br>い<br>ているのに    | 2－(2)<br>思いやり・<br>親切             | 視覚障がい者と、父子が電車内の空いて<br>いる席に誘導しようとするまでのやりとり                                                                                       | pp.70－<br>73   |                                                                  |
|                                   |    | 五百人か<br>ら<br>もらった命    | *重点課題                            | 急遽、献血が必要な命の危ない患者への、<br>福井放送局からの呼びかけのニュースで<br>500人以上の献血者が現れ、命が救われた<br>という話                                                       | pp.118<br>－119 |                                                                  |
| 新しい道徳<br>ゆたかな心<br>5               | 5  | 母の仕事                  | 4－(4)<br>勤労・奉仕                   | 移動浴槽車の看護師(婦)として、お年寄<br>りの介護をする母とその話を聞く娘とのや<br>りとり                                                                               | pp.24－<br>27   | 「移動浴そう車」「ポー<br>タブル浴そう」の記述                                        |
|                                   |    | 「スイミー<br>作戦」<br>「ガンジー | 4－(2)<br>公正・公平、<br>正義            | クラスでの「いじめ」をなくすための話し<br>合いをきっかけに、小さな魚が集まって大<br>きな魚の形となって自分の身を守るスイミ                                                               | pp.32－<br>35   |                                                                  |

|                     |   |                          |                     |                                                                                                   |            |  |
|---------------------|---|--------------------------|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|--|
|                     |   | 作戦」                      |                     | 一作戦や非暴力、不服従運動で人種差別反対や独立のための運動を行ったガンジー作戦を思いつき、なぜいじめや差別が起こるのか話し合う良夫と憲二のやりとり                         |            |  |
|                     |   | わたしにできること                | *重点主題               | UNICEF親善大使として、インドの破傷風の子ども達を訪問し、貧困や感染症、栄養失調の子ども達への救援活動に力を注ぐ黒柳徹子さんの姿                                | pp.82－85   |  |
|                     |   | 助け合う気持ち<br>ーボランティア元年ー    | *重点主題               | 1995(平成7)年の阪神淡路大震災で多くのボランティアが様々な救援活動を行ったことから、自分達にできることは何か、人に役立つとはどういうことかを考えさせる内容                  | pp.86－89   |  |
|                     |   | ちひろの思い                   | *重点主題               | クラスでボランティアの話をしたことをきっかけにちひろがバスの停留所のベンチにすわるお年寄り用にざぶとんをつくって置いたところ、喜ばれたという話                           | pp.90－93   |  |
|                     |   | ガンジーのいかり                 | *重点主題               | 一等切符で電車に乗っていたところ、インド人という理由で途中下車させられ、弁護士として差別撤廃の運動に取り組み、インド人を差別する法律を廃止させるに至ったガンジーの業績               | pp.136－139 |  |
| 新しい道徳<br>ゆたかな心<br>6 | 6 | 妹の手紙                     | 3－(1)<br>生命の尊重      | ぜんそくで入院した妹が、体が不自由ながら口にペンをくわえて文字や絵をかく星野富弘さんの「画集で命の大切さやありがたさを感じ、精一杯生きようと思う気持ちを手紙に書いた、かつての姿を思い出す兄の記述 | pp.36－39   |  |
|                     |   | 夢に向かって<br>ー三浦雄一郎ー        | 1－(2)<br>希望、勇気、不撓不屈 | 70歳を過ぎて冒険家としてエベレスト登頂を果たした三浦雄一郎さんの姿勢                                                               | pp.60－63   |  |
|                     |   | すあしにサンダルの天使<br>ーマザー・テレサー | 4－(4)<br>勤労・奉仕      | カルカッタで「死を待つ人の家」や「聖なる子どもの家」を設立する等、貧民救済の尽力し、ノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサの功績                                  | pp.98－101  |  |
|                     |   | 藤井駅のホームでのできごと            | 2－(2)<br>思いやり・親切    | 駅のホームで道に迷うおばあさんの手助けをする母と子の思いやり                                                                    | pp.102－105 |  |

\*重点主題ー単一の指導内容に当てはめにくいとして小学校学習指導要領(平成20年3月告示)第3章道徳の第3指導計画の作成と内容の取り扱いの(3)をふまえ、編者により重点主題として整理されている。

・東京書籍

| 書名               | 学年 | 主題     | 指導内容          | 概要                                      | 掲載箇所     | 備考 |
|------------------|----|--------|---------------|-----------------------------------------|----------|----|
| どうとく1<br>みんななかよく | 1  | 二わのことり | 2－(3)<br>信頼友情 | 誕生日だが、招待客のないやまがらと、それを気にして訪れるみそさざいとのやりとり | pp.43－45 |    |
| どうとく2            | 2  | おばあちゃん | 1－(1)         | 破れたワンピースを使ってお手玉を作って                     | pp.87－   |    |

児童向け小学校道徳副読本における福祉問題

|                 |   |                     |               |                                                                                                            |               |             |
|-----------------|---|---------------------|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|-------------|
| みんなのしく          |   | のお手玉                | 節度ある生活態度      | くれた祖母と、物を無駄にしないその姿に胸を一杯にするひろことのやりとり                                                                        | 89            |             |
| どうとく3<br>明るい心で  | 3 | 公園ボランティア            | 4-(2) 勤労      | 学期に1回のボランティア週間にこういちをはじめ、3年生以上32人で昼休みに公園の清掃を行うボランティア活動の様子                                                   | pp.28-30      |             |
|                 |   | ハルおばあちゃんのかつどんや      | 2-(4) 尊敬・感謝   | 1人で「かつどんや」を切り盛りし、7人の子どもと引き取った子ども1人の8人を育て上げ、地域のひとり暮らしのお年寄りや子育て中の母親の買い物まで手伝う、町のおふくろさんであるハルおばあちゃんの姿勢と周りの人々の思い | pp.42-45      |             |
|                 |   | ことぶき園に行ったよ          | 4-(2) 勤労      | 理容師の母と老人ホーム「ことぶき園」を訪れた娘の少女が入所者とふれあう様子                                                                      | pp.78-80      |             |
|                 |   | ぼくのおばあちゃん           | 4-(3) 家庭愛     | 祖母が熱心に習字教室に通い練習をしている姿を見習い、練習を重ねて初段に合格したおさむとの心の交流                                                           | pp.96-99      |             |
|                 |   | 六べえじいとちよ            | 2-(2) 思いやり・親切 | 山奥の小さな村に人にだまされて一人さびしく暮らすようになった六べえじいと、彼に静かにふかし芋や山菜の送り物をし、次第に彼にこやかさ、穏やかさを取り戻させていく少女ちよとの心の交流                  | pp.109-113    |             |
|                 |   | いただいたいのち            | 3-(1) 生命の尊重   | 2年生で血液の癌で十ヶ月入院したゆきちゃん、学校で作られたお願いの手紙により血液が提供されるという周囲の人々との助け合いやいのちのつながりについて                                  | pp.128-132    |             |
|                 |   | 耳の聞こえないお母さんへ        | 4-(3) 家庭愛     | 耳の不自由な母への娘のちえ子からの学校生活についてや母を大切に思う手紙                                                                        | pp.140-142    |             |
| どうとく4<br>ゆたかな心で | 4 | やさしいなみだ             | 2-(2) 思いやり・親切 | 買い物の途中、車椅子の車輪に草が絡まって動けない男性と、それを助ける母と娘の美代とのやりとり                                                             | pp.9-11       |             |
|                 |   | 点字メニューにちょうせん        | 4-(2) 勤労      | 家が食堂の、のり子の店の目の不自由なお客さんにメニューを読み上げたことをきっかけに、点訳の仕事をしている小村さんの協力を得て点字メニューを作り上げた彼女の取り組み                          | pp.28-32      | 「バリアフリー」の記述 |
|                 |   | 何かお手つだいできることはありますか？ | 2-(2) 思いやり・親切 | 帰宅途中で、目の不自由な女子中学生を見かけた少年が介助の手を差しのべるまでのやりとり                                                                 | pp.97-99      |             |
|                 |   | 走れ江ノ電光の中へ           | 3-(1) 生命の尊重   | 心臓に疾患のあるとも君が同じ病気の母を9才で亡くし、施設暮らしを続け、中学生の時、父や周囲の人々の計画で大好きな江ノ電の1日運転手をさせてもらった数日後に息を引き取る話                       | pp.142-146    |             |
|                 |   | わたしたちの町にも公園を        | なし            | 自分達の町にできる公園に必要なものを考えるために隣町の児童公園を調べたところ、スロープやトイレ、点字案内板等があり、自分だけのことを考えている自分を反省し、理想の公園について子ども達が報告する話          | 別添冊子資料 pp.1-4 | 別添冊子資料有り    |
| 道徳5             | 5 | 命がないと始              | 3-(1)         | 少女のおじのあつ君が交通事故で右腕を切                                                                                        | pp.42-        |             |

|                |   |                        |                 |                                                                                                                 |            |                               |
|----------------|---|------------------------|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|-------------------------------|
| 希望を持つて         |   | まらん                    | 生命の尊重           | 断しつつも、懸命なりハビリで回復して1年後に結婚し、2年後に子どもが出来て喜びをかみしめている様子                                                               | 45         |                               |
|                |   | 世界じゅうの子どもたちとともに        | 4－(4) 勤労、社会への奉仕 | 開発途上国の現状を学び、ユニセフを通じた募金活動に取り組む小学生たちの活動                                                                           | pp.64－68   |                               |
|                |   | えがおが見たい                | 4－(2) 公正公平、正義   | いじめられていた山田さんといじめていたクラスメイト達を大石さんが仲裁したことで仲直りができ、いじめをなくすために必要な事は何かを考える少女の様子                                        | pp.80－82   |                               |
|                |   | 同じ空の下で                 | 4－(8) 国際理解と親善   | 世界中の子ども達の話す言葉や文化の違い、開発途上国の子ども達の食糧不足や死亡率の高さを紹介                                                                   | pp.98－101  |                               |
|                |   | 「オトちゃんルール」は「あたりまえ」のルール | 2－(2) 思いやり・親切   | 先天性四肢切断で生まれた乙武洋匡さんが小学校時代、クラスの友達が作った「オトちゃんルール」で野球を楽しみ自分自身の当たり前を受けとめていたことのエピソード                                   | pp.102－105 |                               |
|                |   | わたしのボランティア活動体験         | 4－(4) 勤労、社会への奉仕 | 学校のそばの特別養護老人ホームでお年寄りや5年1組の子ども達がレクリエーション大会を行ったり、他のボランティアの人々とも関わり、また、入所者の人々が喜んでくれたことからクラスメイトの志保と由紀がボランティアをしようとする姿 | pp.136－140 | 保育園や高齢者施設、盲導犬の体験歩行、手話体験の写真を掲載 |
|                |   | もう一人のお友達               | 4－(8) 国際理解と親善   | 千葉県立川市に住むウガンダ出身のカササの内乱や貧困、食糧不足等の小学校でのウガンダの現状の話にやさしい気持ちで友達に接するようになった子どもとそれに感謝する母親やカササらのやりとり                      | pp.154－158 |                               |
| 道徳6<br>明日をめざして | 6 | ちいさい子からもらった幸せ          | 4－(4) 勤労、社会への奉仕 | 総合学習の時間に保育園でボランティア活動をする小学生達と園児との心の交流                                                                            | pp.24－27   |                               |
|                |   | 土石流の中で救われた命            | 2－(5) 尊敬・感謝     | 1993（平成5）年の鹿児島県の集中豪雨による土石流の発生と日豊本線の脱線で電車で閉じこめられた赤ちゃんを連れた瀬戸山さんや、逃げ遅れた人々を船で救い出した警官の有村さんと前田さんの姿                    | pp.32－36   |                               |
|                |   | 車いすでの経験から              | 2－(2) 思いやり、親切   | 足を骨折し車椅子生活を経験し、色々な人々の手助けでタクシーや電車に乗車できたことに感謝し、それ以来高齢者にも荷物を持つ等やさしい態度で接する少年の姿勢                                     | pp.70－73   |                               |
|                |   | うちら“ねこの手”ボランティア        | 4－(4) 勤労、社会への奉仕 | 1995（平成7）年の阪神淡路大震災で体育館に避難した人々に先生と一緒に食事配りやトイレ用の水の用意、段ボール等の整理等をし、1年後には高齢者にクッキーを届けようとするねこの手ボランティアの麻美と由希の活動         | pp.78－81   |                               |
|                |   | おばあちゃんのおさがしもの          | 4－(5) 家庭愛       | 認知症と骨折により車椅子生活となった祖母と孫のとも子との心の交流                                                                                | pp.93－97   |                               |
|                |   | お母さんへの手紙               | 3－(1) 生命の尊重     | 重い心臓病で十四年の生涯を閉じた佐江子が生前母への思いや感謝を残した手紙                                                                            | pp.112－115 |                               |

児童向け小学校道徳副読本における福祉問題

|  |                |                   |                                                                                      |            |                           |
|--|----------------|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|------------|---------------------------|
|  | 神父さまはマスクマン     | 1－(2) 不とう不屈、希望、勇気 | メキシコの神父セルヒオが貧しい身寄りのない子どものために覆面レスラーとなって収入を得、孤児院を建てて三千人以上の子どもの育てた話                     | pp.126－129 |                           |
|  | 義足の聖火ランナー      | 4－(8) 国際理解と親善     | モザンビークの地雷除去活動で自らも爆発で右手足を失いつつも、義足のマラソンランナーとして平和活動に取り組んでいる1998年の長野オリンピックの聖火ランナークリスさんの姿 | pp.153－159 | 世界寺子屋運動や国境なき医師団等に関する写真を掲載 |
|  | 心に通じた「どうぞ」のひとつ | 2－(2) 思いやり、親切     | バス内での高齢者と「どうぞ」の一言で席を譲りたかった少年とのやりとり                                                   | pp.164－167 |                           |

・日本標準

| 書名                      | 学年 | 主題            | 指導内容        | 概要                                                                      | 掲載箇所     | 備考 |
|-------------------------|----|---------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------|----------|----|
| みんなでかんがえるとうとく1ともだちっていいな | 1  | かたたたき         | 4－(3) 家族愛   | おばあちゃんの肩たたきをする孫の姿                                                       | pp.18－19 |    |
|                         |    | しゅわでうたおう      | 2－(2) 思いやり  | 手話の挿絵入りで「おおきなうた」の楽譜と歌詞を記載                                               | pp.74－75 |    |
| みんなでかんがえるとうとく2ともだちっていいな | 2  | せかいのどこかで      | 3－(1) 生命尊重  | 戦争被害で食糧不足や隣国へ逃げる諸外国の人々を掲載し、ユニセフ募金でできることを紹介しつつ、自分達にできることを考えさせる           | pp.82－85 |    |
| みんなで考えるとうとく3いっしょにやろうね   | 3  | おばあちゃんはおいしやさん | 2－(4) 尊敬・感謝 | 両親が共働きで、留守番をしていたわたしが体調を悪くし、隣のおばあちゃんが手当てしてくれることで回復し、近隣での助け合いやささげ合いを感じる様子 | pp.15－17 |    |
|                         |    | 「いじめ」なんてしたくない | 2－(3) 信頼・友情 | ある教室の様子を挿絵で示し、気になるところ（いじめ）について問う内容                                      | pp.20－21 |    |
|                         |    | お母さんお手紙書きますよ  | 4－(3) 家族愛   | 耳の不自由な母に対して、学校であったことや先生との会話、母親が大好きな事を手紙に書くちえ子の姿                         | pp.30－33 |    |
|                         |    | 進んで手助けしよう     | 2－(2) 思いやり  | 目の不自由な人への横断歩道や点字ブロック上、バスの乗り降り、テーブルに座っての飲食等での手助けについて挿絵入りで紹介              | pp.54－57 |    |
|                         |    | 電池が切れるまで      | 3－(1) 生命尊重  | 院内学級で勉強し、命や手術についての詩を書き残して亡くなった宮越由貴奈さんの命への深い思い                           | pp.76－79 |    |
| みんなで考えるとうとく4いっしょにやろうね   | 4  | 口で歩く人         | 3－(1) 生命尊重  | 骨形成不全症で両手足が不自由ながら多くの人々の手助けで一人旅をする僕の親友の姿から、生きる勇気がわく牧ロー二氏の話を挿絵入りで紹介       | pp.11－15 |    |
|                         |    | つばさを下さい       | 2－(2) 思いやり  | 自閉症の兄と兄やお年寄りにもやさしい近所のさだみおねえちゃんの姿から自分も困っている人を見つけて助けたいと思うわたしの気持ち          | pp.30－33 |    |
|                         |    | お元気です         | 2－(4)       | 一緒にあやとりをしたり、歌を歌ったおば                                                     | pp.64－   |    |

|                                  |   |                                               |                              |                                                                                                                                   |                |  |
|----------------------------------|---|-----------------------------------------------|------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|--|
|                                  |   | か<br>おばあちゃん                                   | 尊敬・感謝                        | あさんは、足が弱り今は走ったり歩いたり<br>が困難となったが、これから一緒に色々な<br>ことをしたいと思う孫のわたしの気持ち                                                                  | 67             |  |
|                                  |   | おじいさん、<br>どうぞ                                 | 1－(3)<br>正義・勇気               | 電車内で立っているお年寄りに勇気を出し<br>て声をかけ、席を譲るべくとお礼を言うお<br>年寄りとのやりとり                                                                           | pp.76－<br>77   |  |
|                                  |   | 子どもによ<br>る子どもの<br>ための「子<br>どもの権利条<br>約」       | 4－(1)<br>規則の尊<br>重・公徳心       | 子どもの権利条約について子ども達の会話<br>調で、みんなと仲よくできる方法について<br>考えるという視点をふまえつつ、各国の<br>様々な子どもの写真を掲載しながら説明                                            | pp.80－<br>84   |  |
| みんなで考<br>える道徳5<br>こんなとき<br>どうする？ | 5 | わたしの夢                                         | 1－(2)<br>理想、勇気、<br>努力        | 1歳から100歳までの色々な世代の人々の<br>夢とそれを実現しようとする思いを作文に<br>したものを紹介                                                                            | pp.4－7         |  |
|                                  |   | からかった<br>だけなのに<br>……                          | 2－(3)<br>信頼・友情<br>と男女の協<br>力 | クラスの中で広大君の頭にバケツをかぶせ<br>ていじめ、先生に注意された海星君と幸太<br>君、それを見ていたばく、クラスメイト、<br>それぞれの思いや行動を考えさせる内容                                           | pp.40－<br>42   |  |
|                                  |   | サッカーの<br>贈り物<br>カンボジア<br>にでっかい<br>夢をとだけ<br>たい | 2－(4)<br>寛容・謙虚               | 国際協力機構(JICA)の公式サポーターと<br>して途上国でサッカー教室を開く北澤豪<br>さんにあこがれ、ボランティア団体「アーク」<br>を通してカンボジアでのサッカーを通じた<br>ボランティアで子どもを支援していこうと<br>する高木義成さんの思い | pp.45－<br>47   |  |
|                                  |   | 「障害」があ<br>るってどう<br>いうことな<br>の？                | 2－(2)<br>思いやり                | 人の人生は障害と背中合わせで、ひとりひ<br>とりの人ならではの生き方を応援するこ<br>とを説明し、障害を補う道具や建物、道路<br>などの整備や手助けの際の話しかける言葉<br>を考えさせる内容                               | pp.54－<br>57   |  |
|                                  |   | 生きてます、<br>15歳。                                | 3－(1)<br>生命尊重                | 500gの超未熟児で仮死状態で産まれた全<br>盲の少女、井上美由紀ちゃんと15歳まで懸<br>命に育ててきた母の思い                                                                       | pp.75－<br>78   |  |
|                                  |   | ボランティ<br>アしてみよ<br>う                           | 4－(4)<br>勤労・社会<br>奉仕         | ボランティアをするにあたっての準備や自<br>己分析、何ができるかについて質問形式で<br>答え、考えさせる内容                                                                          | pp.79－<br>83   |  |
|                                  |   | みんな地球<br>っこ                                   | 4－(8)<br>国際理解・<br>親善と人類<br>愛 | 世界各国の子ども達の顔写真を掲載しつ<br>つ、子どもの権利条約について紹介し、そ<br>こに込められた願いについて考えさせる                                                                   | pp.114<br>－118 |  |
| みんなで考<br>える道徳6<br>こんなとき<br>どうする？ | 6 | ごみ出しま<br>かせて                                  | 4－(3)<br>集団への参<br>加と責任       | 近所の足が不自由なお年寄りの代わりにご<br>み出しを続ける中学生の奥下雅士くんの姿<br>勢                                                                                   | pp.12－<br>14   |  |
|                                  |   | 21世紀をに<br>なう若い人<br>たちへ                        | 4－(4)<br>勤労・社会<br>奉仕         | 国連難民高等弁務官として活躍した緒方貞<br>子さんが世界各国の難民の子ども達と出会<br>う中で、平和や人間らしく生きる権利につ<br>いて若者に考えてほしいとする内容を難民<br>との対話風景の写真入りで紹介                        | pp.52－<br>55   |  |
|                                  |   | オトちゃん<br>ルール                                  | 1－(6)<br>個性の伸長               | 先天性四肢切断で生まれた乙武洋匡さんが<br>小学校時代、クラスの友達で作った「オト<br>ちゃんルール」で野球を楽しみ自分自身の<br>当たり前を受けとめていたことのエピソード                                         | pp.65－<br>69   |  |

児童向け小学校道徳副読本における福祉問題

|  |  |             |                |                                                                                                                      |            |  |
|--|--|-------------|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|--|
|  |  | しらんぷりはできないよ | 2－(2) 思いやり     | 耳の不自由な人や車椅子の人からの頼まれ事や困り事への対応の姿勢や声かけについて説明                                                                            | pp.70－73   |  |
|  |  | 助け合って生きる    | 4－(4) 勤労・社会奉仕  | 埼玉の医師である堀口正夫の父が、阪神淡路大震災の被災者の救援のために兵庫へ向かい、多くのボランティアと協力して活動する姿勢                                                        | pp.95－99   |  |
|  |  | 十二歳のメッセージ   | 1－(3) 自由、自立と責任 | 足が不自由で車椅子生活の少年がインターネットで自分の思いを俳句にして多くの人々とコミュニケーションを取ろうとしたところ、自分への評価と共に自分の存在を否定する返事が来たことについて、文通を交わし続けているおじさんに問いかけるやりとり | pp.126－129 |  |

・日本文教出版

| 書名                  | 学年 | 主題                 | 指導内容        | 概要                                                                                                               | 掲載箇所       | 備考              |
|---------------------|----|--------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|-----------------|
| 小学校どうとく1<br>あすをみつめて | 1  | おつかい               | 4－(2) 家族愛   | 夕方、楽しみなテレビを見ていたゆみこが母から言われ、なぜで休んでいる祖母の家に荷物を持っていったところ、大変喜んでくれたその姿に、初めの消極的だった気持ちから、うれしい気持ちになった様子                    | pp.39－41   |                 |
| 小学校どうとく2<br>あすをみつめて | 2  | ほんとうの“しんせつ”ってどんなこと | 2－(2) 思いやり  | 目や手足が不自由な人と出会ったことがあるかや、アイマスクをさせ、目の不自由な人の困っている点は何か考えさせたり、片手で体操服に着替えさせ、それを手伝わせる役をつくり、それぞれどんな気持ちがしたかを挿絵入りで説明しつつ問う内容 | pp.22－25   | 「アイマスク」の記述      |
|                     |    | みちあんない             | 2－(2) 思いやり  | 田村歯科を探すおばあさんに公園に行く途中のまことが気付き、道案内をしたところ、大変喜ばれたという話                                                                | pp.31－33   |                 |
|                     |    | おばあちゃんおげん気ですか      | 4－(2) 家族愛   | 小さい頃よく遊びを教えてくれた隣町に住む祖母と、学校に通うようになって疎遠となってしまったてつやが、電話や手紙で「お元気ですか」の連絡を取るようになり、それを楽しみにする祖母との心の交流                    | pp.34－35   |                 |
|                     |    | ごだいごべい 五代五兵衛       | 1－(2) 勤勉・努力 | 17才で目が不自由となり、苦勞の末築いた財を元手に大阪盲あ院（現在の大阪市立盲学校とろう学校の前身）を設立し、目の不自由な人々の教育や治療のために心血を注ぎ、生涯を尽くした五代五兵衛の姿                    | pp.105－108 | 裏表紙に「手話で話そう」の記述 |
| 小学校どうとく3<br>あすをみつめて | 3  | 三丁目の公園             | 2－(4) 尊敬・感謝 | 毎日公園を掃除するおじいさんとそれに感謝する少年とのやりとり                                                                                   | pp.17－19   | 裏表紙に「手話で話そう」の記述 |
|                     |    | バスの中で              | 2－(2) 思いやり  | 満員のバスで高齢の女性に席を譲る少女の思いやり                                                                                          | pp.34－36   | 裏表紙に「手話で話そう」の記述 |
|                     |    | たすかったいのち           | 3－(1) 生命の尊重 | 1995年の阪神淡路大震災で被災したつとむ一家が父と兄の和男により近くの瓦礫の下敷きになった武内さんの息子を助けた後、共に学校の運動場に避難した様子                                       | pp.95－98   | 裏表紙に「手話で話そう」の記述 |
| 小学校どうとく4            | 4  | 遠足の朝               | 1－(2) 勇気    | クラスでいじめにあい、仲間はずれにされているなおみを、ゆみが先生や友人のこと                                                                           | pp.16－19   |                 |

|                   |   |            |                  |                                                                                                                                             |            |                              |
|-------------------|---|------------|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|------------------------------|
| あすをみつめて           |   |            |                  | ちゃんとなちなちゃんの言葉や態度での後押しで自分のグループにさそっていじめを止めさせ、なおみも元気になり、明るい気持ちになる様子                                                                            |            |                              |
|                   |   | ちえばあちゃん    | 2－(4)<br>尊敬・感謝   | 昔からの知恵で何でも教えてくれるちえばあちゃんと、彼女に尊敬・感謝の念をもつ少女との交流                                                                                                | pp.77－79   |                              |
| 小学校道徳5<br>あすをみつめて | 5 | もっとよく知ろうよ  | 4－(8)<br>国際理解・親善 | ソマリア難民の子どもが歯の検査を受けている写真や、ロシアに数百人のソマリア難民が流入している現状の記述<br>他にエチオピアで雨が少なく、井戸で水汲みする人々の様子やルワンダの小学校で算数の勉強をする子ども達の様子を写真入りで紹介                         | pp.2－5     | (8)                          |
|                   |   | 電車の中のできごと  | 2－(1)<br>礼儀      | 母親と一緒に電車に乗っていたみな子が躊躇しつつ、年配の女性に座席を譲り、礼を言われ、さわやかな気持ちになる様子                                                                                     | pp.15－18   |                              |
|                   |   | 考えてほしいこと   | 2－(2)<br>思いやり    | 車椅子を使って、4、5人のグループでコースを作り交代で乗ったり補助したりしつつ意見・感想を話し合うよう指示する内容<br>混雑した歩道、駅のエスカレーターや階段、電車の乗車時等、車椅子で外出した際の場面を挿絵で紹介                                 | pp.19－24   |                              |
|                   |   | つゆのまち角で    | 4－(1)<br>公德心     | 狭い公道を歩く目の不自由な青年がエンジンを響かせた軽自動車を避けた拍子に、道ばたに勝手に置かれたブランターでつまずき、植木の花が折れ、おばあさんがうらめしそうにしているのを見た「わたし」が、青年の汚れた肘の泥を取り、周りの人々の配慮のなさに疑問を投げかけている様子        | pp.32－35   |                              |
|                   |   | 元気がもらえる    | 4－(4)<br>奉仕・公共心  | 清子さんと「わたし」は、阪神淡路大震災で自分達の大学の様子を見に行ったところ、四人が死亡し立ち入り禁止となっており、近くの避難所で被災者への救援のお手伝いをする中で、自らも元気がもらえたことを実感している様子                                    | pp.114－117 | 「入浴サービス」の記述                  |
|                   |   | わたしは幸せ者    | 4－(5)<br>家族愛     | 足腰の弱い祖母に、母の代わりに食事を届ける正夫の姿                                                                                                                   | pp.133－136 | 「ヘルパー」の記述<br>裏表紙に「手話で話そう」の記述 |
|                   |   |            |                  |                                                                                                                                             |            |                              |
| 小学校道徳6<br>あすをみつめて | 6 | わたしの新しい親友  | 2－(2)<br>思いやり    | 近くに引っ越してきた同じクラスの洋子は手話を使って相手とやりとりできるが転んだ自分の弟なら自分で起きあがるまで待ち、宿題の算数も安易に教えずヒントを出して見守ってくれる友人であり、思いやりや視野の広がりを感じている文子の姿                             | pp.12－14   |                              |
|                   |   | 「老いる」ということ | 2－(5)<br>尊敬・感謝   | 「老いる」「お年寄り」のイメージを問うことや、鏡獅子を彫り107才で亡くなった平 櫛 田 中、85才の樹医、街の清掃奉仕のお年寄り、高齢者の介護をする高齢者、リハビリに励んだり病氣とのたたかいを「ほのぼの通信」と名付けて発信する高齢者等を写真や挿絵で紹介し、意見や感想を問う内容 | pp.14－19   |                              |
|                   |   | おばっちゃん     | 4－(5)            | 家族のために懸命に働く祖母の姿と、それ                                                                                                                         | pp.23－     |                              |

児童向け小学校道徳副読本における福祉問題

|  |  |         |                       |                                                                                            |            |                       |
|--|--|---------|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|------------|-----------------------|
|  |  | あんの心    | 家族愛                   | に感謝する家族の姿                                                                                  | 26         |                       |
|  |  | わたしは貨物か | 4－(2)<br>差別・偏見<br>の排除 | 列車の一等車から貨物車に連れて行かれそうになったガンジーが荷物扱いや黒人差別を批判し、断固として座席を移動しなかったその信念や姿勢                          | pp.37－40   |                       |
|  |  | 母の仕事    | 4－(4)<br>勤労・奉仕        | 移動浴槽車の看護師(婦)として、お年寄りの介護をする母とその話を聞く娘とのやりとり                                                  | pp.122－126 | 「移動浴そう車」「ポータブル浴そう」の記述 |
|  |  | 生きている喜び | 3－(1)<br>生命の尊重        | 高校3年の時、「重症筋無力症」となり、大学4年で急激に悪化した <sup>じゅうしょうきんむりよくしょう</sup> が、徐々に回復するにつれ、自分の生き方を見直している「私」の姿 | pp.127－131 |                       |
|  |  | 歩道橋の二人  | 2－(3)<br>信頼・友情        | 両足が不自由でバギー車を利用する竹田君と彼に寄り添う島君の姿から色々なことを思い出しながら仲間としての自分を思い返す田口さんの姿                           | pp.132－135 | 裏表紙に「手話で話そう」の記述       |

・日本文教出版

| 書名                         | 学年 | 主題            | 指導内容             | 概要                                                                                                              | 掲載箇所       | 備考            |
|----------------------------|----|---------------|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|---------------|
| しょうがくどうとく大阪府版<br>いきるちから1ねん | 1  | かぞくだいすき       | 4－(3)<br>家庭愛     | 公園で遊ぶ家族達が手話を使って「ぼく」「かぞく」「おとうさん」「おかあさん」「いもうと」「おじいちゃん」「おばあちゃん」「おにいさん」「おねえさん」「かわいい」「とつても」についてのやりとりを行っているところを漫画にて紹介 | pp.46－49   |               |
|                            |    | さんぼだね         | 2－(2)<br>思いやり・親切 | おばあちゃんが話をしたり、お風呂に入るのに利用している「ぬくもりえん」までタンポポの花が咲く道を一緒に向かい、施設の多くのお年寄りが笑顔で迎えてくれたことで嬉しい気持ちになった孫のやすのりの心の動き             | pp.69－72   |               |
| しょうがくどうとく大阪府版<br>いきるちから2年  | 2  | ひなんくんれん       | 3－(1)<br>生命の尊重   | 阪神淡路大震災を教訓にしながら、授業時間に避難訓練をする様子                                                                                  | pp.42－43   |               |
| 小学どうとく大阪府版<br>生きる力3年       | 3  | ろうじんホームのお手つだい | 2－(4)<br>尊敬・感謝   | 老人ホームでお手伝いをする母の姿を見て、母への腹立たしさが消え、思いを新たにするかず子の姿                                                                   | pp.41－43   |               |
|                            |    | もうどう犬のくんれん所   | 2－(2)<br>思いやり    | 「日本ライトハウス行動訓練所」を見学し、盲導犬の訓練の方法や現状を知り、自分も気をつけることがありそうだと感じる私の姿を                                                    | pp.9－12    | 「大阪府のお話」として掲載 |
| 小学どうとく大阪府版<br>生きる力4年       | 4  | おじいさんの顔       | 2－(2)<br>思いやり    | 電車内で重い荷物を持つ男性高齢者と席を譲ろうとする少年とのやりとり                                                                               | pp.52－55   |               |
|                            |    | ネコの手ボランティア    | 4－(2)<br>勤労奉仕    | 阪神淡路大震災の避難所である体育館で木村先生と共に侑加、由美子、智江、由佳の学校の4人グループがネコの手ボランティアとして被災者救済のためのボランティア活動を行う様子                             | pp.100－103 |               |
|                            |    | おじいちゃ         | 2－(2)            | 同居する寝たきりの祖父との元気な時の思                                                                                             | pp.124     |               |

|                      |   |                  |                   |                                                                                                                                                                    |            |                       |
|----------------------|---|------------------|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|-----------------------|
|                      |   | んとの楽しみ           | 思いやり              | い出を振り返りつつ、同じ町のお年寄りも含めて大切にしなければならないとする少女の思い                                                                                                                         | －127       |                       |
| 小学どうとく大阪府版<br>生きる力5年 | 5 | 地らいと聖火           | 4－(8)<br>国際理解・人類愛 | ボランティアの地雷除去員だったクリスマーンは除去作業中に右手と右足を失いつつも、1998(平成10)年の長野オリンピックで聖火ランナーを務めた他、42kmのフルマラソンに挑戦し、また、220kmのフルマラソンをゴールし、地雷が除去され、被害者がなくなる日を信じて限界に挑戦しているという姿から自分達にできることを考えさせる話 | pp.48－53   |                       |
|                      |   | けいろうの日のプレゼント     | 2－(5)<br>尊敬・感謝    | 敬老の日に感謝を込めて2人のおばあさんに枕カバーを作り、プレゼントしようとする花子の気持ち                                                                                                                      | pp.61－64   |                       |
|                      |   | 車いすの少女           | 2－(2)<br>思いやり     | 交通事故で両足が不自由となり、車椅子生活の道子が自分で車いすをこぐのを手伝おうとする「わたし」と、和子に対して涙を流しながら手伝わないように話す道子の母とのやりとり                                                                                 | pp.78－80   |                       |
|                      |   | わたしたちは池田先生をわすれない | 3－(1)<br>生命の尊重    | 幼稚園の時、原因不明の病気で車椅子生活となりつつ勉強し、高校生になると家庭教師をして、多くの小・中学生を指導しつつも31さいで亡くなった池田先生の生き方                                                                                       | pp.90－93   |                       |
|                      |   | よみがえれ、わたしたちの海    | 3－(2)<br>自然愛・環境保全 | 1997年のナホトカ号の重油流出事故で被害にあった福井県三国町の日本海の海を、海女さんをはじめ、地元の人々や全国からのボランティアにより取り除く作業が行われ、次第にきれいに戻っていったという話                                                                   | pp.125－129 |                       |
| 小学道徳大阪府版<br>生きる力6年   | 6 | 母の仕事             | 4－(4)<br>勤労・奉仕    | 移動浴槽車の看護師(婦)として、お年寄りの介護をする母とその話を聞く娘とのやりとり                                                                                                                          | pp.18－21   | 「移動浴そう車」「ポータブル浴そう」の記述 |
|                      |   | 黒人どれいに自由を        | 4－(2)<br>公正・公平、正義 | ケンタッキー州の奴隷市や奴隷小屋等の様子を垣間見たストウ夫人が、その問題点を世に訴えることとなった「アंकフル＝トムの小屋」を著し、諸外国でも反響を受けたという内容                                                                                 | pp.32－35   |                       |
|                      |   | 命                | 3－(1)<br>生命の尊重    | 5才で「神経芽細胞腫」とわかり、長野県立子ども病院で闘病生活を送りつつ11才で亡くなった宮越由貴奈ちゃんが命の大切さを話として残し、お母さんによるこの話や由貴奈ちゃんの命についての話                                                                        | pp.78－80   |                       |
|                      |   | F 駅ホームのできごと      | 2－(2)<br>思いやり・親切  | 駅のホームで道に迷うおばあさんの手助けをする母と子の思いやり、親切                                                                                                                                  | pp.94－97   |                       |
|                      |   | 「だれか、たのむ。」       | 3－(1)<br>生命の尊重    | 地震で被災した家族が避難時、通りすがりの人々と協力して倒壊した家屋からおばあさんを助け出した話                                                                                                                    | pp.120－123 |                       |
|                      |   | 子どもの権利条約         | 4－(2)<br>公正・公平、正義 | 子どもの権利条約が日本で批准された経緯や内容について挿絵入りで紹介                                                                                                                                  | pp.124－127 |                       |
|                      |   | 日本のナイチンゲール       | 3－(3)<br>敬けん、畏    | 神山復生病院でハンセン病治療に看護師として91才まで生涯をささげ、フローレン                                                                                                                             | pp.132－136 |                       |

児童向け小学校道徳副読本における福祉問題

|  |  |               |                |                                                                                                        |        |               |
|--|--|---------------|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|---------------|
|  |  | いぶかやえ<br>井深八重 | 敬              | ス・ナイチンゲール記章を受けた井深八重の姿                                                                                  |        |               |
|  |  | 青少年赤十字で学んだこと  | 4－(4)<br>勤労・奉仕 | 青少年赤十字トレーニングセンターでの研修で、ボランティア・サービスについての実践やその心を学び、ネパールに学校を作るべく100万円を目標とした募金活動や収集活動をする児童会があることを知った小中学生達の姿 | pp.5－8 | 「大阪府のお話」として掲載 |

・文教社

| 書名                   | 学年 | 主題                     | 指導内容                    | 概要                                                               | 掲載箇所         | 備考 |
|----------------------|----|------------------------|-------------------------|------------------------------------------------------------------|--------------|----|
| どうとく1ねん<br>なかよし      | 1  | 二わのこ<br>り              | 2－(3)<br>信頼・友情、<br>助け合い | 誕生日だが、招待客のないやまがらと、それを気にして、訪れるみそさざいとのやりとり                         | pp.41－<br>44 |    |
|                      |    | さやかさん<br>のおにぎり<br>づくり  | 4－(3)<br>家族愛            | いつもおにぎりを作ってくれる祖母が手にけがをしたため、代わりに昼食のおにぎりを作る兄のまさと妹のさやか達の祖母への感謝の気持ち  | pp.66－<br>68 |    |
| どうとく3<br>年<br>ともに生きる | 3  | 1まいのは<br>がきから          | 2－(2)<br>思いやり・<br>親切    | わたしたちとどんぐり子ども会と地域のお年寄りとのがきを通じた心の交流                               | pp.30－<br>32 |    |
|                      |    | 神戸のふっ<br>こうはぼく<br>らの手で | 4－(2)<br>勤労・奉仕          | 阪神淡路大震災での避難場所となった学校で大浜先生をはじめ宮本君や小学生達がボランティアの人々と協力して避難場所の仕事を手伝う様子 | pp.65－<br>67 |    |

・文溪堂（大阪府版）

| 書名             | 学<br>年 | 主題                     | 指導内容           | 概要                                                 | 掲載箇所         | 備考                                                                      |
|----------------|--------|------------------------|----------------|----------------------------------------------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 1ねんせい<br>のどうとく | 1      | たけとんぼ<br>づくり           | 2－(4)<br>尊敬・感謝 | 小学校のふれ合い参観日でお年寄りから竹とんぼづくりを習い、感謝するひろき達の姿            | pp.60－<br>61 |                                                                         |
|                |        | 二わのこ<br>り              | 2－(3)<br>友情    | 誕生日だが、招待客のないやまがらと、それを気にして訪れるみそさざいとのやりとり            | pp.68－<br>71 |                                                                         |
|                |        | ぼくにでき<br>ること           | 2－(2)<br>親切    | スーパーでお年寄りの買い物の手助けをすすんで行う親子の姿                       | pp.74－<br>75 |                                                                         |
| 2ねんせい<br>のどうとく | 2      | おいしかっ<br>たよ            | 2－(1)<br>礼儀    | 隣のおばあちゃんがホットケーキを焼いてくれたり、学校の帰りに声をかけてくれることへのとおるの感謝の心 | pp.56－<br>57 |                                                                         |
| 3年生のど<br>うとく   | 3      | コメット君<br>をりっぱな<br>盲導犬に | 2－(2)<br>親切    | 目の不自由なおばあさんに手助けできなかったことを悔いてバビーウォーカーとして盲導犬を育てる少女の姿  | pp.4－7       | 「バビーウォーカー」「盲導犬」の記述<br>後ページで「はたらく犬たち」として「盲導犬」「聴導犬」の仕事やこうした犬に出会った際の留意点を掲載 |
|                |        | おじいさん<br>の顔            | 2－(2)<br>親切    | 電車内で重い荷物を持つおじいさんと席を譲ろうとする少年とのやりとり                  | pp.46－<br>49 |                                                                         |

|          |   |                       |                |                                                                                      |            |                            |
|----------|---|-----------------------|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------|------------|----------------------------|
| 4年生のどうとく | 4 | 不思議なぼくの気持ち            | 2-(2) 親切       | 手足が不自由な祖母や車椅子の人、目の不自由な人に対し、親切に接しようとする「ぼく」の気持ち                                        | pp.20-21   | 後ページに「バリアフリー」を説明する挿絵や写真を掲載 |
|          |   | おばさんのおむかえ             | 4-(3) 家族愛      | 足が不自由でありながら、わざわざ学校まで傘を持ってきてくれた祖母に対しての孫の友紀ちゃんの不適切な態度                                  | pp.46-47   |                            |
|          |   | だがしやのおばあちゃん           | 2-(2) 親切       | 高齢で駄菓子屋をやめるおばあちゃんに近所の子ども達が感謝と励ましの会を開いた際の交流                                           | pp.106-109 |                            |
| 5年生の道徳   | 5 | 星野君と定金君<br>— 星野仙一 —   | 2-(3) 友情       | 星野仙一さんが小学校5年生の時の友人である筋萎縮症の定金君とのやりとりや友情                                               | pp.8-11    |                            |
|          |   | 父の言葉<br>— 黒柳徹子 —      | 2-(2) 親切       | 黒柳徹子さんが小学生の時に、自分も罹った結核性股関節炎で松葉杖の少女に声をかける勇気がなかったことが今のボランティアやユニセフの活動につながっているという話       | pp.18-19   |                            |
|          |   | ボランティアクラブに入って         | 4-(4) 勤労・社会奉仕  | すすんで地域のボランティアクラブに入って老人ホームいずみ園でお年寄りと接する優香の姿                                           | pp.38-39   |                            |
|          |   | 命のアサガオ                | 3-(1) 生命の尊重    | 白血病に冒され、7才で亡くなった丹後光祐君が生前育てたアサガオから採れた種が広がり、引き継がれ、命のアサガオと呼ばれるまでの話                      | pp.48-51   |                            |
|          |   | 心にうたえる音楽を目指して— 梯剛之 —  | 1-(2) 希望、勇気、努力 | 小児ガンのために目が不自由となりつつも、ロン・ティボー国際音楽コンクールで2位に入賞した梯剛之さんの話                                  | pp.94-97   |                            |
|          |   | 牛乳配り                  | 4-(4) 勤労・社会奉仕  | 身寄りのないお年寄りの健康づくりや孤立を防ぐ訪問方法として牛乳配りをする父と明と体の不自由なお年寄りとの心の交流                             | pp.114-115 |                            |
|          |   | マーチン少年の夢<br>— キング牧師 — | 4-(2) 公正公平・正義  | 黒人差別に立ち向かい、生涯を非暴力の人種差別撤廃運動によりノーベル平和賞を受賞したマーチン＝ルーサー＝キング牧師の生涯                          | pp.120-123 |                            |
| 6年生の道徳   | 6 | 伊能忠敬                  | 1-(2) 希望、勇気、努力 | 勤勉で向上心にあふれ、50才を超えてからも70才まで日本全国の測量を手掛けた伊能忠敬の姿                                         | pp.10-13   |                            |
|          |   | 共に生きるために              | 2-(3) 友情       | 手話サークルに入っており、スピーチコンテストで手話を使って発表をして拍手を受けたゆみ子と、耳が不自由で手話についてコンテストに向けてもアドバイスをしてくれた京子との友情 | pp.28-31   | 挿絵による手話の説明                 |
|          |   | おばあちゃんの心              | 4-(5) 家族愛      | 家族のために懸命に働く祖母の姿と、それに感謝する家族の姿                                                         | pp.42-45   |                            |
|          |   | 雨— 星野富弘               | 2-(2) 親切       | 中学校の体育教師としてクラブの指導中に首の骨を折り車椅子生活となりつつ、口に筆をくわえて絵や詩、エッセイを書く星野富弘さんの詩と彼のあゆみについての紹介         | pp.46-47   |                            |
|          |   | 地震で学ん                 | 2-(5)          | 1995（平成7）年の阪神淡路大震災での被                                                                | pp.102     |                            |

児童向け小学校道徳副読本における福祉問題

|  |  |                    |               |                                                                                                              |                |                                                                                                     |
|--|--|--------------------|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  |  | だこと                | 尊敬・感謝         | 災害救援への子供ボランティア隊をつくって活動する明子と浩子たちの姿                                                                            | －105           |                                                                                                     |
|  |  | 難民に思いを寄せて<br>一緒方貞子 | 4－(8)<br>国際理解 | 「内戦」や「紛争」「迫害」による「難民」や「避難民」への支援や問題解決のため、国連難民高等弁務官やアフガニスタン復興支援の総理特別代表、国際協力機構(JICA)理事長として平和維持活動に尽力している緒方貞子さんの活動 | pp.128<br>－131 | 後ページにごみ捨て場で暮らすカンボジアの子ども達やマンホールで暮らすモンゴルの子ども達等、アジアの貧困地域の子ども達の紹介や、インドのカルカッタで貧困者救済に生涯をささげたマザー・テレサの功績を記載 |

・光村図書

| 書名                              | 学年 | 主題            | 指導内容                | 概要                                                                                                             | 掲載箇所       | 備考                                                                               |
|---------------------------------|----|---------------|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| どうとく1<br>ねん<br>きみがいちばんひかる<br>とき | 1  | サンドイッチだね      | 4－(3)<br>家族愛        | おじいちゃんとおばあちゃんがパンで、ぼくをハムに例え、色々な話をしつつ一緒に寝る祖父母と孫の様子                                                               | pp.8－9     |                                                                                  |
|                                 |    | どうしたらいいかな     | 2－(2)<br>思いやり・親切    | 電車内でドア近くに立っているおばあさんと席に座っている若い人が寝ている場面から、自分ならどうするかを問う内容                                                         | pp.84－85   |                                                                                  |
| どうとく2<br>ねん<br>きみがいちばんひかる<br>とき | 2  | 小道            | 2－(2)<br>思いやり・親切    | 小道に咲く野菊を通した祖母とミヨとの心の交流                                                                                         | pp.68－71   |                                                                                  |
| どうとく3<br>ねん<br>きみがいちばんひかる<br>とき | 3  | どうしてかな        | 2－(2)<br>思いやり・親切    | 町の絵と共にお札やカード、シャンブーやリンスを例としたユニバーサルデザインについて挿絵で紹介                                                                 | pp.64－65   | 「ユニバーサルデザイン」の記述<br>前ページでトイレ等に見られる障がいのある人が使いやすい建物や施設を示すマークや、「スロープ」、「点字ブロック」について説明 |
|                                 |    | すきやもん         | 2－(2)<br>思いやり・親切    | 島のお年寄りの荷物を持ったり、畑仕事を手伝ったり、低学年の子が忘れたゴミを黙って捨てたり、車椅子の友人の掃除を手伝ったりする親切な兄の姿を描く弟の作文                                    | pp.66－69   |                                                                                  |
|                                 |    | おじいちゃんのごらくごらく | 4－(3)<br>家族愛        | 少年が幼稚園の頃から亡くなった祖父といつも一緒に、祖父の「ごらくごらく」という幸せな気持ちを表す口癖で、行くことの出来なかった温泉の代わりに家の風呂に入浴剤が入った時でも、この祖父の口癖で自分も幸せな気分になったという話 | pp.126－131 |                                                                                  |
| どうとく4<br>年<br>きみがいちばんひかる<br>とき  | 4  | ひとりぼっちのYちゃん   | 1－(4)<br>反省、正直、明朗   | 転校してきたYちゃんをクラスで仲間はずれにしていたのに、日記に自分を責めるYちゃんに心の中であやまる「わたし」の姿                                                      | pp.74－77   | 前ページに相手の嫌がることをするのは何でだろう。知らんぷりしてしまうのは何でだろう。といった「いじめ」について考える内容有り                   |
|                                 |    | おにぎりの味        | 2－(3)<br>友情、信頼、助け合い | 弘法山の山登り遠足で車椅子のオトちゃん(乙武洋匡)をかついでクラスで協力して頂上に着いた時の友達同士の思い                                                          | pp.114－119 | 前ページに「アルミ缶を集めてお年寄りに車椅子を送る」「ユニセフ募金で                                               |

|                          |   |                       |                      |                                                                                                            |                |                                                                |
|--------------------------|---|-----------------------|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|----------------------------------------------------------------|
|                          |   |                       |                      |                                                                                                            |                | 世界の子どもを救う」の内容有り                                                |
|                          |   | ぼくにできること              | 4－(2)<br>勤労・奉仕       | 4年生のあきらが代表委員として、恥ずかしがり屋のため、はじめは憂鬱だったが、ユニセフの募金活動についてクラスの皆に伝え、自らも行うことで、すがすがしい気持ちになる様子                        | pp.120<br>－121 |                                                                |
|                          |   | 長すぎるそで                | 4－(3)<br>家族愛、楽しい家庭   | 祖母の編んでくれたセーターの袖が長くてはじめは嫌だったが、早く大きくなるようお願いしつつ心を込めて編んでくれた話をいとこから聞き、まぶたの裏が熱くなる孫の裕之の心の動き                       | pp.126<br>－131 |                                                                |
|                          |   | 文字を書く喜び               | 1－(2)<br>努力、忍耐       | 中学校の教師星野富弘さんが首の骨を折り、身体が不自由になりながらも、文字が書けると中学生の高久君に言った「うそ」を本当にしようと懸命にペンをくわえて練習し、絵や文字が書けるまでになり、生きる喜びとなったという内容 | pp.160<br>－163 |                                                                |
| 道徳5年<br>きみがいちばんひかる<br>とき | 5 | 朝飯前のボランティア            | 4－(4)<br>勤労・社会奉仕     | 毎朝駅前のごみ拾いする大学生のボランティアの姿から心地よい、温かい気持ちになる「ぼく」と父と母の様子                                                         | pp.36－<br>39   |                                                                |
|                          |   | 泣き虫                   | 4－(2)<br>公正・公平、正義    | 卑怯なことには屈せず、涙を流して立ち向かい、いじめっ子のトオル君の藤井君へのいじめにも一人止めに入り、クラス全体を涙させ、楽しいクラスに変えさせた勇氣君の姿                             | pp.46－<br>53   | 前ページに「ひきょうなことって？」としてひきょうなこととは何かを考えさせたり、いじめは最もひきょうなことであるとの内容を記載 |
|                          |   | わたしの祖母                | 4－(5)<br>家族愛、家族の幸せ   | 認知症となった昔幼稚園の園長をしていた自慢の祖母に感謝し、大切にしている両親の姿から何が自分に出来るかを考える5年生の美津子の気持ち                                         | pp.78－<br>81   |                                                                |
|                          |   | 海辺の町を走るバス             | 3－(1)<br>生命尊重        | 運転手の中田さんが乗客を乗せて、走行中に線路上を歩き、電車に轢かれそうなお年寄りを見つけて助け出し、バスの乗客からも理解と拍手を得られた話                                      | pp.132<br>－137 |                                                                |
|                          |   | おばあちゃんからもらった命         | 3－(1)<br>生命尊重        | 阪神淡路大震災で自分をかばって亡くなった祖母への恩返しの中で、お年寄りの世話をする仕事を志し、介護福祉士となり、命の大切さと生きていることに幸せを感じている広瀬めぐみさんの姿                    | pp.140<br>－143 | 「介護福祉士」の記述                                                     |
|                          |   | チャンピーー日本人が育てた盲導犬ー     | 1－(2)<br>希望・勇気、不とう不屈 | 日本で初めての盲導犬チャンピーを視覚障がい者の河相さんのために訓練を重ね、育て上げた塩谷さんの姿                                                           | pp.156<br>－159 | 「盲導犬」の記述<br>前ページで目の不自由な人々の手助けについて挿絵入りで考えさせる内容有り                |
|                          |   | ユニバーサルデザイン            | 4－(2)<br>公平・公正、正義    | シャンプーやリンス、水道の蛇口、炊飯器、エレベーター、トイレ、バス、駅の構内図を挿絵を交えつつ例にあげ、ユニバーサルデザインについて説明                                       | pp.160<br>－163 | 「ユニバーサルデザイン」の記述                                                |
|                          |   | 最後のコンサートーチェロ奏者・徳永謙一郎ー | 3－(1)<br>生命尊重        | NHK交響楽団の首席チェロ奏者徳永謙一郎が癌にむしばまれたホスピス生活の中で、激しい痛みを耐えつつ、カザルス鳥の歌を力強く演奏し、55年の生涯を終えていく姿                             | pp.170<br>－173 |                                                                |

児童向け小学校道徳副読本における福祉問題

|                          |   |                       |                          |                                                                                                                                                 |                |                                                                 |
|--------------------------|---|-----------------------|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|-----------------------------------------------------------------|
| 道徳6年<br>きみがいちばんひかる<br>とき | 6 | ヘレンとともに<br>ーアニー＝サリバンー | 1ー(2)<br>希望・勇気、<br>不とう不屈 | パーキンス盲学校で指話法や読唇術等を学び、ヘレン・ケラーの家庭教師として、その教育に尽くしたことに共に、大学から名誉博士号を授与されたアニー・サリバンの姿                                                                   | pp.46ー<br>49   |                                                                 |
|                          |   | 五十歳からの再出発<br>ー伊能忠敬ー   | 1ー(6)<br>個性伸長            | 勤勉で向上心にあふれ、50才を超えてからも70才まで日本全国の測量を手掛けた伊能忠敬の姿                                                                                                    | pp.72ー<br>77   |                                                                 |
|                          |   | ぼくの名前<br>呼んで          | 4ー(5)<br>家族愛、家族の幸せ       | 軽い脳性マヒの渋谷君をからかった者と大げんかになり、両親が共に聴覚障がい者であり、言語障がい者であることで両親から名前を呼ばれたことがないことをのしられた太郎は悲しんだが、父からの両親の子として最高の生き方をして欲しいとの願いを知り、心がゆれ動く様子                   | pp.84ー<br>89   | 「聴覚障害者」「言語障がい者」の記述                                              |
|                          |   | 鏡の中の顔                 | 2ー(3)<br>友情、信頼、<br>男女の協力 | 給食時、シチューの食缶を戻す際に康子さんの服に汁が付いたことをきっかけにクラス中から責められ、もともと口数が少なく何も語らず早退して鏡の中に映る自分を見るゆりさんと、そのことを反省しみんなの違いを尊重しつつどうしたらゆりさんが戻ってきやすいかを帰りの会で話し合うクラスメイト達のやりとり | pp.92ー<br>95   | 前ページにテレビをあまり見ない子とよく見る子で話が合わなくなった事から、いじめのきっかけとならないように、違いを考える内容有り |
|                          |   | ちがいをこえて               | 4ー(8)<br>国際理解、<br>親善     | インターナショナルスクールでの皆が違いを認め合う姿勢から、日本での仲間はずれになっていたAさんの事を思い出しつつ、相手の気持ちを大切にして、自分の意見を素直に言えるようになりたいと思うユカの姿                                                | pp.96ー<br>99   |                                                                 |
|                          |   | わたしには<br>夢がある         | 4ー(2)<br>公平・公正、<br>正義    | 黒人差別に立ち向かい、やがてアメリカ合衆国に「公民権法」ができ、非暴力での同じように生きる権利をもつ国作りを実現したマーティン＝ルーサー＝キングの生涯                                                                     | pp.102<br>ー107 |                                                                 |
|                          |   | 五十五年目の<br>恩返し         | 2ー(5)<br>感謝、報恩           | 阪神淡路大震災の被災者に、55年前ユダヤ人がナチスの手から逃げるため、ビザ発行を許可してくれた杉原千畝への感謝を忘れず、アメリカに住むユダヤ人団体が復興資金を作ってくれた話                                                          | pp.108<br>ー111 |                                                                 |
|                          |   | 海は死なない                | 4ー(4)<br>勤労、社会<br>奉仕     | 1997(平成9)年のナホトカ号沈没により、福井県三国町に流出した重油を地元民と全国からのボランティア30万人が協力して取り除く作業が行われ、3ヶ月で日本海の青さを取り戻した話                                                        | pp.130<br>ー135 |                                                                 |
|                          |   | 光の空へ                  | 1ー(2)<br>希望・勇気、<br>不とう不屈 | 生まれつき「骨形成不全症」で「光の中へ」の車椅子ダンスに挑戦し、成功させ、ダンスを続けて作家にもなりたいと思っている野の子の姿                                                                                 | pp.152<br>ー155 | 「ハンドリム」の記述                                                      |
|                          |   | マザー＝テレサ               | 3ー(3)<br>敬虔、畏敬<br>の念     | カルカッタで「死を待つ人の家」や「聖なる子どもの家」を設立する等、貧民救済に尽力し、ノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサの功績                                                                                | pp.180<br>ー183 |                                                                 |

表 3－2 道徳副読本の指導内容

| 指 導 内 容 |                     | 単元数 |
|---------|---------------------|-----|
| 1       | (1) 思慮・反省、節度・節制     | 3   |
|         | (2) 希望、勇気、不撓不屈      | 2 1 |
|         | (3) 自由・規律           | 1   |
|         | (4) 誠実・明朗           | 3   |
|         | (5) 創意・進取           | 1   |
|         | (6) 向上心、個性伸長        | 5   |
| 2       | (1) 礼儀              | 3   |
|         | (2) 思いやり・親切         | 6 4 |
|         | (3) 信頼・友情、助け合い      | 1 7 |
|         | (4) 寛容・謙虚           | 1   |
|         | (5) 尊敬・感謝           | 2 0 |
| 3       | (1) 生命尊重            | 2 9 |
|         | (2) 自然愛、環境保全        | 4   |
|         | (3) 敬けん             | 4   |
| 4       | (1) 公徳心、規則の尊重、権利・義務 | 4   |
|         | (2) 公正・公平、正義        | 1 2 |
|         | (3) 役割の自覚と責任        | 3   |
|         | (4) 勤労・奉仕           | 3 1 |
|         | (5) 家族(庭)愛          | 3 1 |
|         | (6) 愛校心             | 1   |
|         | (7) 郷土愛、愛国心         | 0   |
|         | (8) 国際理解・親善         | 1 1 |
| 重点主題    |                     | 6   |

#### 4. 課題および提言

以上、福祉問題に関し、抽出・整理した内容からその現状や課題について提起しておく。

- ①出版業社によって編者の意図によって、主題は違うが、内容が同じものとして取り上げられているものがある。
- ②高齢者と子どもとのやりとりを色々な場面設定の状況の中で取り上げ、自分ならどうするのかについて考えさせるものが多い。
- ③手話を絵や写真で紹介したり、歌の歌詞や音符と共にそれらを掲載して学習を深めさせようとする内容のものがみられる。
- ④バリアフリーや貧困問題、高齢者問題、障がい者問題等に関して、挿絵や写真、データ等を示して説明するものがみられる。
- ⑤作文や物語等をその内容として取り上げ、子ども達の福祉的な心情や態度を養うべく話し合わせ、考えさせることをねらいとするものがある。
- ⑥登場人物に高齢者や障がい者を使用せず、他者を例にしたとしても十分に説明できるのではないかとされるものがみられる。
- ⑦「特別養護老人ホーム」「移動浴そう車」「ポータブル浴そう」ほか、社会福祉に関連する専門的な用語が使用されたり、福祉専門職やボランティア等、関係者の働きぶりを取り上げたものがみられる。
- ⑧阪神淡路大震災をめぐるボランティア活動を通じた人々の支援や協力に関連するテーマを取り上げたものが多くみられる。
- ⑨高齢の先人達の姿や偉業から自己の生き方や今後の姿勢について考えさせようとするものがみられる。
- ⑩現在活躍している芸能・スポーツ関係の人物をボランティアや奉仕活動等と関連づけて取り上げているものがみられる。
- ⑪国際問題(紛争、貧困、差別等)に関するものから学びを深めさせ、自分に出来ることを考えさせようとするものがみられる。
- ⑫災害(地震・風水害・海洋汚染等)に関し取り上げ、地域を越えた多くの人々との「助け合い」や「協力」、「奉仕」といった考え方を交えつつ、自己の姿勢について考えさせようとするものがみられる。
- ⑬先人の業績として社会事業を挙げつつ、必ずしもその内容が盛り込まれていない(生かしきれていない)ものがみられる。
- ⑭感受性豊かな児童の学習に「伝記」の教育的効果は多大であると考え。一部の出版社では取り上げられているが、その地方が生んだ先覚者について取り上げ、その実践を紹介しつつ学習を深めさせるものも必要であろう。
- ⑮障がい者の生きる姿勢やその態度から自己の問題としてそれを考えさせようとするものがある一方で、そうした人たちに対する捉え方が客体化され、社会的弱者としての位置付けからどう関わるかとする視点での取り扱われ方をしているものもみられる。
- ⑯ボランティア活動を取り上げているものも多くみられる。

- ⑰空欄に自分ならば相手に対してどんな言葉かけや態度で接するかについて考えさせ、記入させるものがみられる。
- ⑱漫画や絵本の形式で子どもの心情に働きかけるものもみられる。
- ⑲出版業者によっては、指導内容が広範囲にわたり、単一の指導内容に当てはめにくいとして、小学校学習指導要領（2008〈平成 20〉年 3 月告示）の第 3 章道德の第 3 指導計画の作成と内容の取り扱いの(3)をふまえ、編者によりそれを重点主題という独自の設定をして、副読本に盛り込んでいるものもある。
- ⑳指導内容として、「思いやり・親切」「家族(庭)愛」「生命尊重」「勤労・奉仕」等を設定するものが多く、特に「思いやり・親切」が非常に多く取り扱われている。
- ㉑指導内容として、「向上心・個性伸長」「公德心、規則の尊重、権利・義務」等を設定して、自己の姿勢や生き方について考えさせるものもあるが少ない。
- ㉒指導内容に照らしたねらい以上に福祉との関連で学び得る点がある内容にもかかわらず、それが生かされていないものがある。
- ㉓大阪府版という形で発行され、巻末に地域の実情に則した福祉の先人の業績についての内容を取り入れているものや別冊資料として地域版を添付して地域のボランティア活動等について盛り込んでいるものもみられる
- ㉔京都府のように教育委員会が独自に資料を開発し、各学校に配布し、使用を促しているケースもある。内容に著名人のメッセージを載せ、出張授業をしてもらったり、京都府の小学生の作文を記載し、考えさせる授業展開を想定した資料である。各学年ではなく、低学年(1, 2 年生)、中学年(3, 4 年生)、高学年(5, 6 年生)という分冊で、中学生(1～3 年生)までの 4 冊構成となっている。教育委員会に問い合わせたところ、府内の学校によって、他社が刊行している道德副読本を併用して使用するケースもあるとのことである。
- ㉕愛知県のように県の外郭団体の県内学校の幹部教員等の関係者を中心に、独自に編まれた副読本を開発し、各学校に使用を促しているものもある。
- ㉖出版業者によっては 3 年生までしか出版していないものがある。

このように、各出版業者・団体より様々な内容が取り上げられるようになりつつあるが、それぞれに質量共に未だ偏りもある。

さらには、現状の学習指導要領を元にした指導内容に、個性を尊重するという福祉領域でも尊重される価値観の前提ともなりうるであろう自己を愛し、尊敬するといった視点が必要ではないだろうか。それにより、副読本の指導内容にも相互の人格の尊重、相互の信頼や尊敬に基づく人間関係による思いやりの感情、自己や他者への信頼や尊重をねらいとするものを取り入れることが可能となる。

また、教師用の指導書も十分なものとはいえず、副読本の資料としての使用頻度や福祉への認識・理解も含め、担当教員の力量によって活用法にも違いが生ぜざるを得ない、あるいは授業そのものが特別視されたり、観念的なものとして受け止められる実情もある。事業仕分けにより、2002(平成 14)年度から小・中学生に行っていた「心のノート」の全児童への配布も今

年度より中止されるという現状の中で、道徳の時間の指導が形式化され、他の授業の草刈り場ともなるおそれがある。

塩野谷祐一は福祉国家について「ばらばらの利己的個人から成る社会を前提として、単に所得再分配を行い、社会的弱者に『セーフティーネット』を提供するだけの機械的な仕組みではない」<sup>19)</sup>とし、「福祉国家の再建が求められる今日、人間の価値を創造する道徳的社会としての福祉国家の観念が不可欠である」<sup>20)</sup>と指摘する。

今回のこのような福祉に関連する内容の抽出を元に、読本である副読本を有効に機能させる上での内容の分析・検証を今後さらに進めたい。

---

1) 新村出『広辞苑』岩波書店、2008、p1982

2) 新村 同上書、p1983

3) 文部科学省『小学校学習指導要領解説道徳編』平成 21 年 6 月、東洋館出版、p25～p28

4) 文部科学省『小学校学習指導要領解説総則編』平成 21 年 2 月、東洋館出版、p20～p21

5) 文部科学省『小学校学習指導要領』平成 20 年 7 月、東京書籍、p102～p104

6) U.Bronfenbrenner “Two world of Childhood” 長島貞夫訳『二つの世界の子ども達』金子書房、1973

7) 中里至正・松井洋編『異質な日本の若者たち 世界の中高生の思いやり意識』ブレーン出版、1997、p68

8) 中里至正・松井洋 同上書、p169～p170

9) 産経新聞 2004(平成 16)年 11 月 28 日朝刊

10) 文部科学省『小学校学習指導要領解説道徳編』平成 21 年 6 月、東洋館出版、p27～p28

11) 文部科学省 同上書、p27～p28

12) 有田和正『現代道徳科学 8 現代道徳の授業が面白くなりそうな気配はない』明治図書、1995、p33

13) 村田昇・宮脇陽三『現代道徳教育の研究』めいけい出版、1984、p11

14) 村田・宮脇 同上書、p28

15) 新村 前掲書、p2441

16) 下程勇吉『新版教育学小事典』法律文化社、1984 年、p324

17) 杉原誠四郎他『2010 年度版必携学校小六法』2009 年 2 月、協同出版、p21

18) 杉原 同上書、p358

19) 塩野谷祐一『私の構想トマス・ヒル・グリーンと福祉国家』

「季刊 家庭経済研究第 69 号 特集住宅」家庭経済研究所 2006、p81

20) 塩野谷 同上書、p81